

「しずかな」はん

はせ りんご

◆登場人物◆

桜井 鮎一（山音クリニック・分室長）

角田 早苗（同分室ケースワーカー）

山音 恭子（山音クリニック所長）

若林 なつみ（同分室の外来患者）

小坂 恵美子（同分室の入院患者）

仁科 容子（同分室の元入院患者）

神谷 慎二（ネット関連の業者）

小山内 優（なつみの友人）

谷 涼次（恵美子の弟）

藤沢 トキコ（フリーのルポライター）

【SCENE／1】

何処からか音が聞こえる。波音にも似た、何か小石を擦りあわせるような音。静かに少女に光。白っぽい衣装に身を包んだ仁科容子。どうやら器を手にも米を磨いでいるらしい。

仁科容子

…（ふと顔を上げ）そこで大きなポイントになるのが洗米の過程であろう。最近、マイコン型自動炊飯器などにより、手軽にご飯をおいしく炊けるようになった。ゆえにこの前段階、「米を磨ぐ」作業こそがおいしいご飯に大きく作用すると思ってもらいたい。むろん、その前にも忘れてはならないのがお米の計量だ。お米は、炊飯器に付属している計量カップ・180mlで計る。カップにすりきりまで入れて、きちんと計ることがポイント。ちなみに洗米の後、水気をきちんと拭いた後に、炊飯器に注ぐ水の量も同様に必ず計量カップで計りたい。炊飯器の内側に刻んである目盛はあくまでも目安に過ぎない。世の中には経験と勘に頼れるものとしてはいけな

ノがある。

自分の手を暫し見つめる容子。ふと空間に視線を送る容子。少しだけ明るくなる空間。ややあって駆け込むバジャマ姿の小坂恵美子。動きを止める容子。部屋の空気に違和を感じる。

恵美子 …誰？

容子 ……

女の声 大丈夫？ 恵美子さん。

駆け込む角田早苗。背を向ける恵美子。

角田早苗 ちょっと待ってね、先生を（机上のインターフォンに向かう）：

谷涼次 姉さん。

駆け込んでくる谷涼次。

涼次 姉さん、待って、僕の話も聞いてよ。

早苗 ここは関係者以外立ち入り禁止です。

涼次 だから関係者ですって。血を分けたたった一人の姉弟です。

早苗 従ってもらえないなら警察に連絡します。そもそもこの時間に館内に居る事自体が不法侵入です。

涼次 何処にでもかければいいでしょ。

早苗 本当にそうですので。

恵美子 待って、角田さん。

早苗 恵美子さん…

恵美子 …（涼次に）どうやって入ったの？

涼次 ずっとトイレに籠ってた…

早苗 診察時間内に忍び込んで？

涼次 だって…なかなか2人きりになれそうになくて…

恵美子 そう…

涼次 どうしたんだよ姉さん。3年ぶりに訪ねてみれば…そんなに痩せちゃって…何があつたんだよ。

恵美子
来ないで。

体を硬直させる恵美子。

涼次
姉さん：

早苗　：とにかく落ち着いて下さい。貴方の不用意な言葉がどれだけ恵美子さんを傷つけていると思っているんですか？　何も分かってないくせに：女の声　角田さん。

部屋の入り口から院長の山音恭子。手には白衣。

早苗　院長：

山音恭子　聞いている恵美子さんの事も考えないと。

早苗　え、あ、はい：すいません：。

山音　（白衣を着ながら）院長の山音です。谷涼次さんね。

涼次　え……はい。

山音　とりあえずですなえ、一旦お姉さんを部屋に返して、私がお話を伺いた
いんだけど：

涼次　はあ：

山音　もう一つの選択は110番しかないのね。

涼次　……分りました。それでいいです。

山音　よろしい。じゃあ、角田さん。

早苗　あ、はい……（恵美子に寄り）じゃあ恵美子さん：

涼次　ゴメン姉さん。

無言で院長に会釈する恵美子、早苗に付き添われ去る。

山音　で？　何を謝ったの？

涼次　えっ？

山音　たった今：お姉さんに。

涼次　：それは：

山音　ぼんやりとした感傷だけで、その場限りの発言をしない。

涼次　いや：

山音　それがまず最初のルール。守れる？

涼次　はあ：

山音　貴方の不用意な「ゴメン姉さん」で、彼女が一晚考え込んでしまうケー
スだつてあるんだからね。

涼次　でも……あの、姉はそもそも何で：

山音　どう思った？

涼次　えっと：姉を見てですか？

山音　久しぶりなんですよ？

涼次　ええ、まあ：

山音　谷涼次君ね。お姉さんの苗字はもともと小坂だから：君が変えられたん
だ。辛かった？

涼次　なんでそこまで：

山音　私の患者だからよ。他にどんな理由があるの。

涼次　じゃあ、先生は……

このあたりから再び米を磨ぎ始める容子。

山音　久しぶりにお姉さんを見てどうだった？　スリムで奇麗になった？

涼次　いえ……もうびっくりしてしまつて：なんて言うか：昔はもつと明るく
て、誰にでも、何だろ、好意をもつて周囲を見つめているような：

山音　上等じゃやない。

涼次　えっ？

山音　タバコ持つてない？

涼次　え、いや僕は：

山音　ま、どっちみちバレると面倒か：

涼次　あの：

山音　いつまで居られるの？

涼次　とりあえず大学の方が試験休みなので。

山音　そう、じゃあちよつと待つて。確か割引券が：

壁脇の事務机に向い、何やら引き出しの中を探る山音院長。

涼次　潮騒ですか？

山音 えっ？

涼次 気のせいかな、時折波の音が：

山音 ああ…風向きの加減ね。10キロとは離れてないから。

手を止め山音を見つめる容子。

涼次 そうですか…姉はいつから：

山音 ああ、これこれ、沖繩そばは食べた事ある？

涼次 あ、いえ…

山音 はしょって話しても2時間はかかるからさ。

涼次 ああ、はい…

山音 じゃあ、こつち。

部屋を出る山音、涼次。再び米を磨ぎ始める容子。

容子 ……さて、いよいよ洗米。いわゆる米を磨ぐ段階である。まずは…

何処からか波の音、船の警笛。照明が落ち、手旗とカンテラの男達。容子に救難信号を送る。

容子 「し、ず、か、な、ご、は、ん」…ん？

【SCENE／2】明るくなる舞台。とある秋。依存症患者と向き

合うために建てられた山音クリニックの分室。その施設内のこざっぱりしたフリースペース。正面の入り口から、白衣姿の桜井鉦一と女子高生姿の若林なつみが入ってくる。居場所を無くした容子、適当に去る。

桜井鉦一 まま、どうぞどうぞ。

若林なつみ 失礼します。

桜井 おっと、こりゃいかんなあ、そうかそうか、朝方アルコールの方で使ってたから、ちよっと待ってね……ま、これに腰掛けて。

なつみに椅子を勧めながら、手早く部屋を片付ける桜井。

なつみ 断酒会ですか？

桜井 ああ、ううん。デイクアの一貫、太極拳。

なつみ へえ。そんなのもやってるんだあ。

桜井 そっちの方は大丈夫ですよねえ。

なつみ え、ああ…ええ、そっちのほうは、このトコロは。

桜井 そ。これでいいかな…ホントに時間大丈夫？

なつみ ええ。30分ぐらいなら。

桜井 いやいや、僕もお客さん待ちなんで、ほんの10分。ひとアイデアだけ。

（ノートを開きながら）何か飲む？

なつみ ああ、いえ。

桜井 そ。で、何処まで行つたっけ…

なつみ チヒロとヤマザキが浜辺のコテージで隕石を目撃する場面。

桜井 ああ、そうそう「ヤマザキ」な、なんだあれ？ 大きかったよねえ。すぐその岬の脇の海面に…津波とか大丈夫かなあ…『チヒロ』隕石ね、あれは『ヤマザキ』隕石？ そうなの？』って…

なつみ それが何か？

桜井 「チヒロ『隕石ね、あれは』」って。

なつみ 別に。

桜井 少し唐突じゃない？ だってチヒロって平凡な女子大生でしょ？ まるで隕石の飛来を予知してた学者とか、実は宇宙人だったみたいないな…

なつみ （微笑んで）やだ先生…

桜井 え、何が？

なつみ 海ですよ。ヒロインですから。

桜井 えっと……平凡の解釈が、広いつて事？

なつみ そうじゃなくて…

桜井 海？ 海は…広いな…ってあれ？

なつみ ですから、ヒロイン。ヒロインですから。

桜井 ああ、ああ。

なつみ それに、そろそろ話を展開させないと、ただの純愛ロマンスになってしまうでしょ？ いくらガキ相手とは言え…

桜井 ちよっと、ちよっと待ってね、なつみ君。えっとじゃあ、ヒロインであるチヒロは…え、そう展開する訳？ 海洋学者とか予知能力者とか？

なつみ そうじゃないけど…だって、唐突じゃないでしょ？ ちゃんと伏線は

つてあったでしょ？ ヤマザキのマンションのシーンで。

桜井 えっと？

なつみ やだなあ…ヤマザキの誕生日にチヒロが手料理作ってて、栓抜きが無

くなってしまっしょ？

桜井 ああ、そうねえ、それでヤマザキが年の功って奴？ 座卓の角を使っ

て見事に栓を抜く。

なつみ 帰り際にチヒロのヘアピンもなくなるでしょ？

桜井 ヤマザキ曰く「髪を下ろした君もなかなかキュートだ」。

なつみ 両方とも金属でしょ？

桜井 ……え？何？これがその隕石の伏線だったの？

なつみ そりゃそうですよ。アクシデントにはアクシデントなりの理由がある

んです。そうでなければ登場人物を都合よく動かすための作家の御都合主義

になっちゃいますよ。

桜井 ……すごい。

なつみ ってね…ああ、今は、ほら、買い被り？ 前にシナリオ講座に通っ

てたことあるんで…

桜井 それは受け売り。

なつみ ああ、それそれ。

桜井 いや、まあ、それはいいとして、なつみ君…

なつみ なんですか？

桜井 何でそれがこの隕石のくだりの伏線になるのかな？

なつみ だって隕石ですよ？ 金属が引つ張られるでしょ？

桜井 う…ん…隕石と引力は違うよねえ…磁石とも違うし…

なつみ だから、ブラックホールでしょ？

桜井 はい？

なつみ 自分の身近に存在するブラックホールを予感してた主人公チヒロが、

隕石を見て素早く言い当てたんでしょ？ 何か変？

桜井 だって、ココは避暑地の海岸だよ、ヤマザキのマンションとは何百キロ

も離れてる。

なつみ それも伏線あるでしょ？

桜井 え、そうなの？

なつみ ヤマザキがチヒロに手料理の感想を聞かれたくんだり。

桜井 えっと…「ヤマザキ『いやあ、どれも上手いよ。この煮付けなんかお

袋の味そっくりだ』」

なつみ もっと後。

桜井 「チヒロ『褒めてばかりだと余計に信じられなくなるわ』」

なつみ その次の次の次。

桜井 「ヤマザキ『難を言えばこのスープかな…少し塩が効き過ぎてるけど

…でも海を思い出させる風味だね』」…うわあ、これかあ！

なつみ その時点でチヒロは今日の海岸での遭遇を予感していたの。

桜井 そうだったのかあ…

なつみ んで、他に問題点は？

桜井 あ、いや…でもさあ…

女の声 失礼します。

正面奥からケースワーカーの角田早苗。カルテを持って登場。

角田早苗 あ、すいません。ミーティングでした？

桜井 ああ、いえいえ、ただの雑談。気にしないで…

早苗 こんにちは。

なつみ ……こんにちは。

早苗 ちょっとごめんなさいね…先生、何とかサービスの神谷さんって人が先

生とお約束があるとかで…

桜井 (腕時計見ながら) ちえ、少しは遅れると踏んでただけだな…。

早苗 待たせましょうか？ 私でもいい用件なら…

桜井 あ、いや…同席はして欲しいんだけど…ゴメンネ、続きはメールで、

朝までには送るから。

なつみ はい…(立ち上り)あの。

桜井 何？

なつみ 真っ直ぐ帰っていい？ 受付寄らずに。

桜井 ああ、もちろん。角田君。

肯き、机上のインターフォンに向う早苗。

なつみ 変な奴に遭わないし。

早苗 えっ？

桜井 なつみ君…

なつみ ねえ先生…これって治療の一貫なんですか？

桜井 これって…共同執筆？

なつみ まあ。

桜井 んなわけがないでしょ。ねえ、僕まで信用できなくなっちゃった？

なつみ そうじゃないけど…

桜井 ねえなつみ君、そりゃこうして2人でお話作ってれば、お互いの事をより分ってくるでしょ。その事によって僕は君に、より良いアドバイ스가出来るかもしれない。でもそれはあくまで結果論ですよ。僕らの目的は違う。2人で面白い児童劇を書くこと。それは信じてよ。

なつみ はあ…

桜井 それと、僕は治療という言葉は嫌いです。君は病気だけでも病気ではない。治すんじゃない。次にコマを進めるのね。

なつみ 分かりました。じゃあ…

桜井 うん。（早苗に視線）

早苗 （インターフォンを押して）フリースペースの角田です。B通路お願いします。はい。1名です。

なつみ …じゃあまた来週。

桜井 うん。あっちの方はメールするから。

なつみ はい。失礼します。

去るなつみ。少し見送る早苗。

早苗 読まれてるじゃないですか。

桜井 え…ああ、なつみ君？ 違うよ。本気で狙ってるんだから10万円。

早苗 懸賞か何か？

桜井 あれ、知らない？ ちゃんと掲示板にも出てるんだけど…（ノートをまさぐり）これこれ…

早苗 （リーフを見て）えっと…あら、ちゃんと心療医師会の主催じゃないですかあ。

桜井 まあ東日本ブロックだけだね。

早苗 へえ…

桜井 まず金の出所から見るとO型の典型行動だねえ。

早苗 「対話が生み出す児童劇。心療医と患者の豊かな世界」。

桜井 ウチの院長も一枚かんでてね、辛い立場。

早苗 なんか医師会の面目と、ご都合が見え見えなんですけど。

桜井 締め切りが再来週の水曜。

早苗 ほんとだ。最優秀作品に10万円。結構渋いんでは？

桜井 まあ、あくまで内々の企画だからね。それも試験的な。

早苗 あ、また白衣脱ぎ捨てて…院長に突っ込まれますよ。

桜井 好きじゃないんだよ。どっかの医療サスペンスじゃあるまいし。

早苗 （白衣をたたみながら）で？ 成果はどうなんです？ 若林なつみとの合作は。

桜井 まあまあ、でもブラックホールときた時は少々驚きましたけどね。

早苗 ブラックホール？

桜井 一瞬、心療内科医師の反応しちゃった。

早苗 どういう事です？

桜井 ま、今夜晩飯でもしながらゆっくりと。空いてる？

早苗 ま、どうせ帰っても文献読んでるだけですけど…あ、それに、もう一度詰めておきたいこともありますし…

桜井 ああ、例のルポライターさん？ 摂食の取材したいって言う。

早苗 ええ、私はやっぱりはっきりNOと言うべきだと思っんですよ。現場を預かる人間の主張として…実は昨晚もですねえ…

桜井 まあまあ、じゃあそれも含めて今夜って事で。虎屋でいい？

早苗 ええ、私は…でも、大丈夫かなあ…

桜井 ああ、なつみ君？ 君は心配性すぎるって。あれでなかなか面白い発想してるんだよ。何か一時期シナリオ教室に行っていたことなんかもあるらしい。

早苗 そうじゃなくて、先生の存在が。

桜井 ん？

早苗 なつみさんにとって、治療ではないって確認が、別の依存を生む目的を持つてないといんですけれどね。

桜井 ああ…それは…いいいや、大丈夫ですよ。

早苗 ほら。

桜井 うん？

コメントの追加 [はしぐち2]: 他の部分だと「机上」だったり「机の上」

早苗 決まって丁寧語になるんだから、自信がないときと何か隠すとき。

桜井 え、そう？ 今なつてた丁寧語に。

早苗 「大丈夫ですよ」って。

桜井 …君は心療内科が向いてますね。

早苗 既に所属してます。

桜井 あ、ホントだ。今、僕「向いてますね」って言ったよね。

早苗 言った、言った。

桜井 あ、でもね、丁寧語って言えば面白い話があつてね……

机上のインターフォンから呼び出し音。

早苗 あ、やべ。待たせたままだ。

桜井 ああ、例の……

早苗 （受話器を取つて）今、準備整いましたので、こちらに直で通してもらえますか？

桜井 何の準備だよ。

早苗 ロックは空いてます。よろしく。ああ、それとB通路は閉じておいてください（受話器を置く）。

桜井 …これも何とかならないのかなあ。

早苗 ああ、セキュリティですか？

桜井 何か余計な緊張させるでしょ？ みんなも僕達も。

早苗 院長曰く、増改築の際の行動線予測の欠如だとかつて。受付の内側に繋がるんだつたら問題なかつたそうですよ、このフリースペース自体が。

桜井 それ言われると弱いんだよね。

早苗 なんです？

桜井 僕の友達なんだよ、設計士。

早苗 あらまあ。

男の声 どうもお忙しい所、恐縮です。

正面の入り口から営業マンスタイルの神谷涼次。

神谷涼次 始めまして…（早苗に）あいや、桜井先生とは先日も長々としたメールで失礼を……

早苗 あの。

神谷 はい？

桜井 桜井は私です。

神谷 え……うそ…（見比べている）

早苗 （白衣を桜井に投げる）

桜井 （慌てて着込む）

神谷 桜井先生とは先日も長々としたメールで失礼を……

桜井 はあ、どうも。

神谷 大変失礼いたしました。（名刺を出し）私、前カブ、メンタルネットサ―ビスの神谷と申します。

桜井 ああ、どうも、えつと僕は（名刺を探しながら）……近々引越しますので手作りのいい加減なもので申し訳ないんですが……

神谷 ああ、いえいえ。

桜井 あれ、それすら持ち合わせてないや。すいません。桜井です。で、こつちが僕の仕事を手伝ってくれているケースワーカーの角田早苗です。

神谷 どうも神谷です。

早苗 すいません私も名刺は部屋に戻らないと……

神谷 ああ、どうぞお構いなく。そもそもこんなモノは……（もう一枚取り出しておもむろに破きながら）ただの紙つ切れ。ホント過去の産物ですの。

2人 …はあ……

神谷 あ、それとですねえ。先ほど自己紹介で……会社名の前に「前カブ」と申しましたのはホンのジョークですの念のため。

早苗 まあ、そうですねえ。

神谷 恐縮です。もちろん2部上場はいたしております。

桜井 まあ、どうぞ……（椅子など勧め）……で、どういったご用件でしょうか？

神谷 ああ、はい……えつとメールの方は……

桜井 ええ、ちゃんと一読、いや3〜4回は読みましたよ。でもどうも要領を得ないわけですね、それで今回は彼女にも同席をしてもらおうと思つてこうしてお待ち申していたんですが……

早苗 そうだったんですか？

桜井 まあまあ。

神谷 なるほど……いや、それはきつと、当社がメールしたご案内の文章のせいですね。とても不明瞭でして、私も送りながら「おいおい大丈夫かよ」って

感じでしたんで。

桜井 はあ…でも、貴方の会社の話でしょ？ そう責任転嫁されても…

神谷 いえいえどうかご心配なく。ホントありがとうございます。

桜井 …何が？

神谷 なにぶん非常に新しいジャンルのご提案でして、それにやはりあれですね、個人情報に絡む内容ゆえ、セキュリティの緩いメールではなかなか説明し難いことも多くて。

桜井 それで、こうして時間を作って会って話をと…。

神谷 さすがは院長様。

桜井 室長です。分室の。

神谷 あ、じゃあ…分長様。

早苗 ブッ。

桜井 角田君。

早苗 ああ、すいません。でもなかなかいい作戦ですね。新卒の訪問営業の。

神谷 いやいや、それこそ買い被りですよ。

2人 えっ？

神谷 恐縮です。

桜井 …えっと…それでですねえ、最初はこのクリニックのホームページ関係かと思っていたんですが、どうやらそうではないようです…

神谷 はい。今日は単刀直入にご相談申し上げます。

早苗 ぜひ、その方向で。

神谷 「亡くなられた仁科容子様に関していろいろ教えていただけたらと思います…」。

早苗 えっ？

桜井 …なるほど、そういう事でしたか。

神谷 ああ、誤解なさらないで下さいね。決してワイドショーや週刊誌のような興味本位の事でなく、むしろ患者さんへの守秘義務は承知の上で伺っております。

桜井 それはそれは…。

神谷 いやあ、大変だったとお聞きしました。仁科容子急死の報道がなされた直後は記者やカメラマンやらで、マトモな診療が出来なかったほどですってねえ。ホント心中お察し申し上げます、はい。

桜井 ちょっと待ってくださいよ。その話は誰から？

神谷 たった今受付のご婦人から。まあ、時間潰しですね。

早苗 春日井さんですね。

桜井 ああ…いやでも、あんたねえ…

神谷 神谷です。

桜井 ああ、失礼、神谷さんねえ。

神谷 はい。

桜井 マスコミの人達にも同じ事を言ってますが、守秘義務ウンヌンは別にしても、何のコメントもできません。失礼ですが神谷さん、あなた心療内科に關しての基本的な知識は？

神谷 ええ、充分勉強させてもらってるつもりです。

桜井 じゃあ話が早い。確かに仁科容子さんはウチの患者さんでした。僕も何度か話をさせてもらってます。モデル時代からの付き合いです。でも最後にお会いしたのは1年前。実際、彼女の最期に立ち会える立場にはないんですよ。この職種自体がね。

神谷 あくまで通院は本人の意思ですからね。死の近くに關わりながら、最後の場面からはある一定の距離がある。

桜井 ええ、まあ、そう言う事です。実際、彼女の死は僕らもニュースで初めて知った。例えば今通院してる患者さんが、今日を境に来なくなっても、こちらからは詮索しない。もちろん風の噂に一喜一憂したりはしますが。

神谷 ああ…

早苗 あら？

桜井 何？

早苗 でも神谷さんはどうやってココを探し当てたんです？ マスコミにはこのクリニックの名前は全部伏せてもらってたし、実際、最近では誰も訪ねてなかったでしょ？ よくたどり着けましたね。

桜井 確かに。やっぱ週刊誌系ですか？

神谷 あ、いえ…強いて言えばご本人から。

早苗 …ご家族ですか？

神谷 いえ、ご本人です。仁科さんご本人。

2人 ……あの。

神谷 それもあって、ぜひご供養もしくは墓守サービスのご検討を。

桜井 はい？

神谷 ご遺族の方がそっちの方面に關して全くご関心薄いようでした。

早苗 ちよつと待ってください、今何て？

神谷 えっと、

早苗 ぼしゅ、ですか？ 何とかサービス。

神谷 ああ、これは失礼。ええ、墓守サービス。いわゆる墓守りですね。ほら

灯台守とか防人とか、あ、防人は違うか…

桜井 あ…全然話しが。

神谷 そうそう、まずはこれを…

鞆の中からパンフレットを出し2人に手渡す神谷。続いて紙コップを3つ出し、マイ水筒からお茶を注ぎ始める。

桜井 …ああ、すいませんねえお構いなくて…

神谷 粗茶ですが。

桜井 はあ…どうも。

早苗 「ネット墓地：死者と出会える永遠の場所」？

神谷 世界中で開設されたウェブサイトの数が、個人さまのものも含めまして、10億を突破したそうです。今まで人類が持ち得なかった、全く新しい自己表現の場所です。新しいコミュニケーションのカタチ。自分の居場所。心の在処。僭越ながら私共はこうした心療内科の分野にも深く関わる本質的な領域だと思っています。

桜井 まあ、確かに。

早苗 んで？ んで？

神谷 もともと比較的若い世代に根づいた文化なのですが、さすがに近年、ウェブサイトを持つていらつしやる方々で、そのご本人が他界されるケースが、少しずつ増えてきたわけでございます。

早苗 ああ、なるほどね。

神谷 ご本人が他界されたウェブサイトはどうなると思います？

早苗 えっと…サーバーへの契約が切れれば抹消されますよね。

神谷 ええ、でも例えば自動引き落としになっていて、遺族が手続きをしない内は本人が死んでもウェブサイトは生き続けますよね。もしくは遺族がそれを拒んだ場合。ほら、死んで何年か経っても、その人の部屋をそのままにしておき心理ですね。掃除もして、季節の花を飾り、いつでもその人が帰ってこられるようにする。ウェブサイトも基本的には可能です。

桜井 なるほど…

神谷 少なくとも亡くなった直後、その人のウェブサイトは、実に多くのアクセスを受ける事になります。哀悼、追悼の文章で溢れます。故人とのエピソード、初めて明かされる意外な一面。そんなモノが溢れかえり、皆が共有し共感する。その人を偲ぶ、これも新しいカタチです。

桜井 もしかしたら生前のサイトよりも活気を帯び、リアリティーに溢れる訳か…

神谷 さすが分長様。ピーピー。実際の葬儀の際に届けられる弔電など足元にも及ばないでしょうね。何しろ時間に制約されず絶対的な量が違う。死んだはずのウェブサイトの主が、生前よりもくつきりと浮かび上がってくる。ただ返事を書かないだけで、それ以外は最も現実味溢れる場所になるのです。

桜井 うーん。

早苗 お茶いただきます。（不味い）

神谷 どうぞどうぞ…仁科さんのウェブサイトをご覧になった事は？

桜井 ずっと前に一度。もちろん生前ですけど。1年ぐらいかな。

早苗 私は…ああ、そうだったんですか。彼女もホームページを…あ、あああ。

桜井 あ、私、やつと話が繋がりました。

神谷 同じようだったんですか？ 今された例え話と。

神谷 ええ…と言うより、今お話したのがまさに仁科さんのケースです。以前にもあったんでしょうが、我が社がこういう事態を予測し、チェックし始めてからは、ほとんど最初のケースだったんです。

桜井 ずっと死ぬ奴を待ってたんですね。有名人のサイトを巡回して。

神谷 そんな人聞きの悪い…まあ、でも、事務所がヤラセで開いてるモノも多くて…ああ、つまりいかにも本人が書き込んだかのようにしておいて、実は100%ゴーストライターって奴ですね、そういったのは全部対象外でして…それに比べ、仁科さんはホントに自分でサイトを管理、運営していらした。

桜井 ええ、そういう性格でしたね、彼女は。

早苗 ねえ、先生。

桜井 ん？

早苗 先生がサイト見た頃つてのは、彼女、打ち明けて、書き込んでたんですか？ その、摂食障害の事。

桜井 まさか、だって…一応はタレントのページだし…ねえ。

コメントの追加 [はしぐち4]: カット
コメントの追加 [長谷5R4]:

神谷 ええ、まあ、それゆえに謎の死って感じが強くて、いまだにミステリアスな展開になっておるわけです、はい。
早苗 飛び降りでしたよね……自室のマンションから……
桜井 うん……結局線香の一つもあげに行けなかった……
神谷 ご愁傷様です……

気まずさからお茶を飲む桜井と神谷。不味い桜井。

早苗 あれ、でも、じゃあ何ですか？ その仁科さんの死後のページをどうにかするって事ですか？ 神谷さん達の会社が。

神谷 ええ、まあ、通常ですと、ご遺族の方々と相談しまして、一周忌辺りで供養の会などを盛大にプランニングして封鎖するか、逆に博物館的な扱いとしてページを整え半永久的に残すかを選択していただきます。

桜井 いずれもかなりの手数料を搾取できるってわけですね。

神谷 またまた分長様。ちゃんと適切な価格設定ですよ。特に後者は保守点検も含め責任を持って代行する訳ですから……ご本人の生前の価値観、世界観を充分研究、熟知したうえで最適なサイト運営をですねえ……

桜井 つまり、そのためにも私達からいろいろ取材を？

神谷 ああ、いえ……

早苗 でも最終的にはご遺族の同意が必要なんですよ？

桜井 あ、そうか、その手先になれって事ですね、橋渡しの……

神谷 いやいや、通常ならそれも仕事なんです……

桜井 どう通常じゃないんです？

神谷 ああ、はい……ココからは私心ですが、私はこの業務を行うにあたり、40%を営業利益への動機にしています。

桜井 残りは？

神谷 やはりこんな時代ですからね。ネット上でさ迷っている魂の浄化です。特に彼女のようなケースですと、家庭環境といい、生きてきた社会といい、もしかするとネット上が唯一の生きる場所だったようにも思いますので……これが残りの40%です。

桜井 そうかもしれませんね。

早苗 で、残りは？

神谷 はい？

早苗 40たす40で80。

神谷 ああ……

早苗 ああじゃなくて。

神谷 個人的にファンでした。最初の仕事が彼女という事で、何か運命的な出会いを禁じ得ません。これが残りの10%です。

早苗 あと10。

神谷 えっ？

桜井 新卒のトーク術ですか？

神谷 ああ、いやいや……実はいろいろネットを探っていたら、おかしい事が発覚しましてね……ああ、でも、ココから先をお聞きになると、後戻りできませんよ？

桜井 ほら、やっぱ新卒の営業トークだ。

早苗 乗りかかった船です。

桜井 早苗君……

神谷 実は……彼女のサイトに最近おかしい書き込みがありましてね、怪談には少し時期遅れなんです……ホントに聞きます？

桜井 乗りかかった船です。

神谷 そうまで言われては……書き込んだのが仁科容子さんご本人なんです。

早苗 ……はい？

桜井 まさか……

神谷 もちろんこれは誰かの悪戯でしょうね。ま、こっちはその内足が付くでしょう。でも、僕はもつと気になる事がありましてね。

早苗 焦らさないで、早く。

神谷 5月の13日。彼女がマンションから飛び降りる30分前。彼女、意味不明の文章をアップしてるんです。

桜井 ホントですか？

早苗 意味不明って？

神谷 化けましてね。

早苗 えっ？

神谷 それはもう文字通り。いわゆる文字化けてやつです。数字にカタカナ、アルファベットに記号。とても読めたモンじゃない。

桜井 え、でも、それって彼女の最後の言葉。もし事件ならダイイングメッセージって可能性もあるでしょ？ 警察は？

神谷 ええ、もちろん動いたようです。科学捜査研究所のコンピュータや暗号解読のプロなんかも使って。普通の文字化けだと、ある種のパターンがあって比較的簡単に化ける前の文章が判明するそうなんです。でも、どうしても引つかからなかったそうですね。

桜井 あ、じゃあ、もしかして、僕らにお手伝い出来る事って…

神谷 はい。どんな些細な事でもいいんです。キーワードを探すため、生前の容子さんの情報を。

早苗 文字化けのダイイングメッセージを復活させるためのキーワード…

桜井 いや、そう言われてもなあ…何か他に記述はないんですか？ その亡くなった日には。

神谷 ええ。亡くなる3日前に詩が書かれていただけですね。その前には3ヶ月以上更新なくて…

早苗 詩って、ポエムですか？

神谷 というより散文ですね。題名は「しずかなごはん」

早苗 静かなご飯？

神谷 全部ひらがなです。ああ、そうそうそれはコピーが…。

桜井 しずかなごはん、か。

早苗 何か意味深ですね。摂食の事を隠してたにしては…

桜井 うん…

神谷 ああ、これこれ…

女の声 ああ…

見れば入り口に立っている女子高生姿の小山内優。

早苗 あ、えっと…

桜井 また春日井さんだな…

小山内優 なつみの事でお聞きしたいんですが、

桜井 え、ああ、若林なつみさん？

優 はい。

桜井 彼女ならついさっき帰って…

優 知ってます。出てくの確認してから来てるので…

桜井 ああ、そう…

優 ちよつといいですか？

桜井 ああ、そうねえ…じゃあ角田君。

早苗 えっ？

桜井 こちらも急ぎの様だし、ココにたまたま若林さんの資料もあるし。

早苗 えっ？

桜井 経験、経験。（早苗に白衣を着せ、神谷に）沖縄そばはお嫌いですか？

神谷 あ、いいですねえ。好物です。

桜井 小じやれた店が出来ましてね。深夜営業してる割には上手いんです。この時間ならもう開いてるはずだ。

早苗 ちよつと先生。そんな美味しい話の時だけ私に…

桜井 こちらケースワーカーの角田さん。女性同士の方がいいでしょ？

優 ええ、まあ、よろしく。

桜井 じゃあ、行きましょうか。こっち閉めておいてね。

早苗 あ、こら…

2人を残し外へ去る桜井と神谷。暫しの間。

早苗 あ…じゃあ、まあ、どうぞ。

優 失礼します。

少し緊張しながらも椅子に腰掛ける優。

早苗 （資料を見ながら）えっと…なつみさんのクラスメイト？

優 はい。あ、いえ去年まで…

早苗 悪いけど生徒手帳か何かお持ち？ 疑う訳じゃないんだけど、一応患者さんを守る立場だから…

優 私なんです。

早苗 えっ？

優 私の所為なんです。なつみがあんなになつちやったの。

早苗 そう…まだお名前を聞いてなかったけど…

優 あ、すいません（生徒手帳を見せ）…小山内優と言います。なつみとはクラブが同じで…そもそも1年の夏休みに私が馬鹿なことをしなければ…

早苗 ああ、待って。落ち着いて。えっと、ああ、3文字の小山内さんね。

優 …すいません。

早苗 今回のなつみさんの事はご存知ですよ。

優 はい。摂食障害です。私がそれを知っていることを彼女も知っています。だって、私が……

早苗 大丈夫よ、落ち着いて。彼女もアナタの事は私達に話してくれています。

優 一番信頼できる友人として聞いてるわ。

早苗 ウソツキ。

優 ……えっ？

早苗 私が裏切ったんです。彼女の付き合ってた先輩を、奪ったんです、私が……

早苗 ……そう……その辺は聞いてないけど……

この辺りで仁科容子がフラリ入室。

優 信頼なんてウソです。殺したいくらいに憎んでいます。

早苗 それは、彼女がそう言ったの？ アナタに。

優 いえ、彼女は全然。でも、最近はあまり話さないし、でも、会うといつもの笑顔で接してくれて……

早苗 そう。あのね小山内さん……それは何かの勘違いか考え過ぎじゃないかなあ。なつみさんは私達にいろいろ話してくれているのね。学校の事やお家の事、友達のこと。そしてアナタのこと。それにね……今、彼女は回復に向け、順調に推移しているの。周りが心配し過ぎるのがとてもよくない段階なの。気持ちには判るし、もしかしたら貴方の言う様な事もあったかも知れないけど……

優 彼、辞めたんです、行っちゃった。

早苗 ……そうなの？

優 私とはとくに別れて、先輩達と会社作ってたらいいんだけど、何か大きな借金したって話で……

早苗 うん。

優 多分、なつみ彼の部屋にいます。家には帰っていないから。

早苗 いや、でも……ちょっと待ってね……ああ、確かにこの1ヶ月はお母さんが一緒に来てはいないけど……

優 ついさっきもココ出て都通に向いました。彼の下宿が地下鉄北山線なんです。家に帰るなら右に向って谷町でしょ？

早苗 ああ、まあ、そうねえ……でも小山内さんさあ……あ、ちよっと待って。

桜井の残した資料を探り、手を止める早苗。

早苗 ねえ、小山内さん……

優 なんてでしょう……

早苗 彼の名前、ううん、苗字、もしかしてヤマザキ？

優 ええ、そうです。山崎崇。

早苗 ……時間ある？

優 ああ、はい。

早苗 詳しく聞かせて、私の部屋で。

優 はい。

資料を集め優を連れて部屋を出る早苗。

容子 ……さていよいよ洗米。いわゆる米を磨ぐ段階である。まず計量したお米の中にたっぷり水を注ぐ。そして軽く手早く洗い、すぐに水を捨てる。一人暮らしを始めたばかりの初心者には、水を捨てず、大量の水の中で磨ぎ始めるが、これこそ大きな過ち。洗米とは、一つに米の表面についているヌカを落とすことが目的。水の中でゆっくり洗うと、ご飯自体がヌカ臭くなってしまうのだ。そして……

再び米を磨ぎ出す容子。周囲はゆっくり夜の暗さに。

容子 捨て水の残りで米を磨ぐ。この水の残り加減が技であり、力加減が奥義である。この段階で米粒には微妙な胚芽の部分が残っており、これを洗い過ぎてはいけない。胚芽の旨味が炊飯時ににじみ出るよう、ほんの少し傷を付けるのが理想的である。米を「磨ぐ」とはそういう意味だ。心を込めて研磨する。指の第2関節と親指の腹を使い、全体に回るように15回ほど摩擦したら、再びたっぷりの水を注ぎ、手早く捨てる。必ず捨てる。残り水で再び磨ぐ。これを2〜3回、水を換えて繰り返し、最後は水気をきちんと切る。慣れてくると磨ぐ指の感覚が結構楽しくなるモノだが、洗い過ぎは禁物。米の旨味である胚芽、およびそのアミロースなどまで水の中に捨てることになりかねない……（手を止め）……磨ぎすぎたか？

指に付いた米粒を眺める容子。やがて気を取り直して、

容子 金ザルなどを用い、充分米を乾燥させた後は、逆に炊く前、お米に水を吸わせる。水に浸す時間は水温により、夏場なら30分、冬なら最低2時間くらいで……何しろ、この辺りの繊細な準備に、どれだけ喜びを見出せるか。これが「美味しいご飯」にありつけるか否かの分岐点である。個人差もあろう。料理人の気質もあろう。とにかく……米は、いや炊きあげたご飯は、古より「完全食物」と呼ばれている。絶妙の栄養バランス、命の源としての……

どこからか目の焦点が合わなくなり、やがて言葉を失う容子。背後に予感めいた視線を送る。

【SCENE／3】 早苗が入りざまに壁のスイッチを入れ、再び昼間のクリニック。

早苗 どうぞ。
女の声 失礼します。

スーツ姿の藤沢トキコが入室。フリーのルポライターである。ちなみにこのシーンの間、容子は気楽に浮遊している。

藤沢トキコ ホントいろいろお手数をお掛けしまして。

早苗 いえ……仕事ですから。

トキコ 大変なお仕事ですね。

早苗 いえ……仕事ですから。

トキコ はあ……

山音 どうも、お待たせしました。

院長の山音が入室。

トキコ このたびは無理を言いまして……（名刺を出し）藤沢と申します。

山音 どうもご丁寧に（受け取り自分も出して）……山音です。

トキコ （早苗へ同様に）遅れましたが、藤沢です。

早苗 （受け取り）私は生憎切らしてまして。

山音 あら、そうなの？ ケースワーカーの角田です。
トキコ よろしく。

山音 角田さん、悪いけどお茶でも……

早苗 それも生憎切らしてまして。

山音 え、お茶っ葉を？

早苗 はい。

山音 そう……あ、じゃあ、小坂恵美子さんの部屋で待機してて、準備出来次第連絡するから。

早苗 合点承知の介。

山音 はい？

極めて社交辞令的に頭を垂れて去る早苗。

山音 すいませんねえ、普段はああじゃないんですが。

トキコ はあ……

山音 何か気が立つてますね。昨夜も仕事だったらしく……あ、いや……あれは「盛り」かな。

トキコ えっと？

山音 ヒトは秋口にも「盛りがつく」そうだから。

トキコ そうなんですか？

山音 ああ、すいません。つついっい馴染み口調で。

トキコ ああ、いえ。

山音 硬派な週刊誌に連載されてたでしょ？ 青少年の引きこもりに関する辛口エッセイ。たしか半年ほど。

トキコ ええ、はい。

山音 楽しみに拝見してました。確かペンネームが時田トキコさん。

トキコ ええ……あでも、何で分りました？ 顔写真一度も、何処にも出してないはずなのに。

山音 連載の題字の下に手書きのサインあったでしょ？ カタカナの「トキコ」がこれ（名刺）と同じ筆跡で。

トキコ ああ、そうか。

山音 いえね、大平さんからのご紹介で、カタカナのトキコさんって聞いた時、

コメントの追加 [はしぐち6]: カット

コメントの追加 [はしぐち7]: ちょっと違和感を感じます。
「いただければ」なら「幸いです」とか「と思います」と続くような気が。。。
「構いません」を残すなら、「いただいて」かな？

トキコ もしかしらと思ったんです。「もしかしらあのトキコさんかな」って。
トキコ どうも恐縮です。ただ…どちらも本名ですので念のため…

山音 えっと…じゃあ…

トキコ カタカタのトキコは親がつけたモノ。そして、連載してた頃の時は別れたダンナの名字です。

山音 あら、それは…どうもすいません。

トキコ いえ…でも、連載読んでらったなんて…もう3年も前なのに、覚えていただいて感激です。

山音 いえいえ。

トキコ あの頃が私のピークでした。

山音 はあ…そうなんですか？

トキコ …随分嫌味に感じられたでしょ？ 地元の議会議員さんの名前まで使って無理な取材設定で…

山音 ああ、大平さん？ ま、一応名誉顧問に名前借りてますからね。嫌といえませんがね。

トキコ 知ってて仕組みました。

山音 いえいえ冗談ですよ。私は平気ですしね、そういうの。

トキコ (微笑んで) はあ。

山音 じゃあ進めていいですか？

トキコ ええ、おねがいします。

山音 ああ、そうそう。まあ、いちいち細かいことを申し上げる必要もないんでしょけど…これから会ってもらう女性ですが、資料でも送りましたように、一時は生死の境までたどり着いた人です。体型や外見に関する質問だけはお避け下さい。

トキコ あ、はい。心得ます。

山音 もちろん向うから話してきた話題に関しては流れに沿っていただければ構いません。

トキコ 承知しました。

山音 私も部屋の角に居て良かったですよ。

トキコ ええ、はい。

山音 それと…これは急な思い付きなので、どちらでも構わないんですが、もう一人だけ同席を許していただければと思ひまして。

トキコ ああ、はい。じゃあ先ほどの？

山音 ああ、いえ。これから会ってもらう小坂恵美子の実の弟さんです。昨晚久しぶりに再会した間柄で、一応のレクチャーは済ませたんですが、直に同席させるのも手つ取り早くていいかと思ひましてね。

トキコ なるほど。

山音 私同様、取材中はいっさい発言させませんので。

トキコ ああ、はい。

山音 彼女本人には了承取つてあります。私もね、嫌がるかと思つたんですが、意外といえますか、むしろ乗り気な感じでして。

トキコ そうですか。えっと、じゃあ弟さん、昨日までは彼女の様子を知らずにいらした訳ですね？

山音 ええ、昨晩は大変でした。依存症全般から始まって拒食のプロセスを一通り話だけでゴーヤチャンプル2皿。割引券があつて良かった。

トキコ …え…

山音 資料にもあつたと思いますが、姉弟2人が高校生の時に両親が離婚。それぞれ別の親に引き取られたケースですね。

トキコ 確か…娘さんがお父さんでしたね。

山音 はい。まあ、珍しいタイプですが…何か不味いですか？ 取材対象として…

トキコ ああ、いえ。全然。

山音 じゃあ、呼びますね。

トキコ お願いします。

インターフォンに向う山音。この隙を見てスーツのポケットから固形栄養食を取り出し急いで口に入れるトキコ。

山音 ああ春日井さん？ ロビーにラガーシャツの男性いるからフリースペー

スに案内して。ロックは空いています。それと、2003にも連絡お願いします。

早苗さんいるはずだから…ちよつと、ねえ、何？ その合点承知の介？ 流

行つてんの？ それ… (受話器置いて) ったく…

トキコ あ。

山音 はい。

トキコ 一つだけ先によろしいでしょうか？

山音 ええ、どうぞ。

コメントの追加 [はしぐち8]: そもそもカットなのか? 「直接的な行動など」とかなのかな?

トキコ 入院の基準みたいなモノはあるんですか?

山音 ああ、そうですねえ：摂食の場合、依存の対象が生きたために欠かせない食事でしょ。ゆえにあまり強引な処置は施さないのが原則です。家族の元で緩やかに自分を見つめ直してもらおう。関係性を見詰め直してもらおうのが一番の近道なんです。だからほとんどが通院ですね。オペとか投薬が中心の西洋医学とは皆さんが思っている以上にスタンスが違います。

トキコ ええ、わかります。

山音 入院を勧めるのは、ホントに命に関わる時。体重が標準値より25%以上減っていたり、意識不明になったり……ほとんどが緊急入院です。

トキコ はい。

山音 それに多くの患者さんは入院を極度に嫌がりますからね。

トキコ それは、あれですね。そもそもダイエツト思考から拒食衝動がはじまったりするからなんですよねえ。

山音 その通りです。つまり人からどう思われるかが、かなり大きなストレスになっている。自分が入院なんてどうにも承知できない。

トキコ そうですか…

山音 心に起きたアンバランスを、他者への暴力や薬物、自傷行為などにも向えない、そんなガラスのような繊細さを伴っているケースも多いので。

トキコ なるほど。

山音 ああ、でもこれから会ってもらおう小坂さんは別ですね。彼女の場合、本来戻すべき家庭が存在してないのと、珍しく自分から入院を望んでいる。少しレアなケースではありますね。

トキコ そうなんですか…

無言で登場する涼次。黙って会釈。

トキコ ああ、どうも。

涼次 (会釈)

山音 どうかしら?

涼次 (会釈)

山音 …ああ、喋るなって念押された? 受付の女性に。

涼次 (肯く)

早苗 失礼します。

早苗に付き添われ入室する恵美子。

恵美子 うつす。

涼次 (うなずく)

恵美子 え、何?

涼次 (「口にチャック」のポーズ)

恵美子 変なの。

トキコ どうも、このたびは無理を言いまして……(名刺を渡す)

恵美子 はあ…

トキコ 藤沢と申します。

恵美子 (山音に) 座っていいですか?

山音 ええ。

早苗 私はどうしましょうか?

山音 あ、良かったら同席させてもらいます?

早苗 ああ、いえ…少し部屋で調べたいこともありますし…

山音 そう。何かあったら連絡しますね。

早苗 はい。失礼します(去る)。

恵美子 (名刺を見ながら) フリージャーナリスト…かつこいいですね。

トキコ ああ、いえ…

恵美子 でも、これはお返ししておきます。もう覚えまして。

トキコ ああ、はい…

山音 じゃあ、後はお任せしますね。(恵美子に) 話したいこと話せばいいからね。私達がいて喋り辛かったらいつでも言って。いなくなるから。

恵美子 はい。

トキコ じゃあ…失礼ながら、小坂さんの基本的な情報は院長先生からいただいています。お時間が長くなっても悪いので、その辺はかいつまんで、出来るだけ要点だけ質問します。それでいいですか?

恵美子 普通そうなんですよ。

トキコ えっ?

恵美子 いえ、話し出し方っていうか。スマートだなあって。

トキコ ああ…あまり自分では意識しませんが…ついつい覚えた常套句かしれませぬね、そう言えば。

恵美子 どうぞ。何でも聞いてください。答えられないことは所詮答えませんから。

トキコ はい。ありがとうございます。じゃあ、まずは……

メモの準備と資料に視線のトキコ。

山音 何か飲む？

恵美子 ああ、いえ。

涼次 (山音に意思表示)

山音 ん？

涼次 (ジェスチャーで「僕は知らない」)

山音 ああ、はいはい……

トキコ よければ、自分の体の変調を自覚された辺りから。

恵美子 ああ、そうですね……最初のきっかけはやはり失恋かな……私、結構

そっちの方は奥手で、同じ世代の男子にほとんど興味なかったんですね。でも、まあ、今から思えば何処まで本気か分からない所もあるんだけど、気になる人が出来て……自信あったんですよ。大学時代の先輩だったんだけど、街で再会して……彼の反応も素直で積極的だったし。自分で描いてた恋愛のマニエアルの通りに事が進んでいって、すっかり安心してた。多分この人と結婚して家庭を持つんだろうなんて思ってたね。ところがある日決定的に振られちゃって。親友だと信じてた女友達に取られたんですけどね。

涼次 それ、いつ？

山音 こら。

涼次 あ……すいません。

恵美子 4年前かな。彼がメールの文章を送り間違えて……全部分かつちゃった。

おまけに彼が私を称してね「ぼっちやうり型は好みじゃない」って。

涼次 何処の誰だよ？

山音 こら。

涼次 あ……すいません。

トキコ ……それで？

恵美子 後は……自暴自棄にダイエットに走って、見返してやるとかって……3日ほど絶食したら食欲に歯止めが利かなくなつて、ごく自然に吐きグセ覚えて、これは凄いでって、食欲満たしながら痩せられる。最高の手品、都合の

いい魔法を手に入れたって……典型的なパターンですね。もちろんその当時はこれが病気だと知らずにいたから、吐いた後は後悔して、自分だけが醜い行為をしている。生きてる価値もない……なんてね。

涼次 姉さん……

トキコ どこかで「自分はこんなじゃない」と責め立てる？

恵美子 ええ、そうですね。……一枚だけ写真があるんです。32キロぐらいの頃の。見ます？

トキコ ……ええ、良ければ……

恵美子 これです。

トキコ 失礼(受け取って)……! これは……

思わず立ち上がって写真を眺める涼次。一目見て顔を背ける。

恵美子 なかなかのモンでしょ？ でもね。それは今だから言えること。

涼次 どういう事？

恵美子 そこに写った私を、私がやっていた頃はね。鏡を見ても全然変だと思わなかった。むしろ結構イケてる。もう少し頑張れば、もっと綺麗になるってね。

トキコ 冷静な判断が出来なくなる。

恵美子 ええ。でもね、このままではヤバイいって自覚もちゃんとある。だって、食べ物の味なんか何も感じないし、純粹な空腹感をすっかり忘れてしまっている。でも一旦スイッチが入ると……気づけば目の前にカップ麺やコンビニ弁当の空がズラッと並んで、とりあえず吐く。吐けばとりあえずの決着がつく。

トキコ なるほど……

恵美子 世の中に私と食べ物しか存在してないのね。周りの社会も他人との関係性も何もない世界。街を歩いていても人の顔なんか見ていない。何処見ていると思います？

トキコ ……腰ですか？

恵美子 (微笑んで) そう。ウエストしか見ていない。人をウエストだけで判断するの。その内スイッチが入って食べまくる。そして吐く。自分がドンドン嫌いになる。またスイッチが入って、食べる。吐く。……実際食べるためなら何でもやってみた。

トキコ 例えば？

恵美子 ほらスーバーで半額になるシールってあるでしょ？

トキコ ああ、夕方に値引きで張る奴ですか？

恵美子 随分お世話になりました。

トキコ え、でも最近はシールに十字の切込みが入ってて、貼り替えられないようにしてるって…

恵美子 だからね、業務用の卸の専門店で同じシールを買って、こっそり貼るの。食べたい物に次々と。

トキコ なるほど…

恵美子 …ある日、レジに向う私の後ろを男の人がついてきた。私ね、逃げたの。逃げる自信があつたのに、そのままゆっくりレジに歩いていった。

トキコ じゃあ…いわゆる万引きGメンにわざと？

恵美子 「これで止められるかも」って「見てくれてありがとう」って。

トキコの背中を軽く押す容子。

容子、トキコ 「これで止められるかも」…

恵美子 そう…：また戻っちやったけど…

トキコ …

恵美子 …親身な友人が私のために言ってくれる。「食べ吐きでは何も解決しないよ」って。でも当時は「何て酷いことをいう人だろう」って本気で怨んでいた。

トキコ (山音に) あの先生。

山音 はい、何か。

トキコ やっぱ、2人だけにしてもらう訳にはいかないでしょうか？

山音 はあ…：そうですね…

涼次 (立ち上り無言の抗議) …

山音 (それを見て) 弟さんに外していただくのはどうかしら？

涼次 いや、でも、

山音 貴方を信用しないんじゃないけど…：少し心配なので。

トキコ ええ…：いえ、それでいいです。…(涼次に) すいません。

涼次 そんなあ…

山音 どうせまだ居座る気でしょう？ 今朝持ってたデイスカウントショップの

袋。あれ、中身寝袋でしょ？

恵美子 涼次…

涼次 分りました。…じゃあ部屋でいい？

恵美子 いいよ。

涼次 じゃあ…

しぶしぶ部屋を出て行く涼次。

トキコ 続けていいですか？

恵美子 どうぞ。

トキコ 大学の先輩への恋心とそして親友が絡んでの失恋、もしくは裏切り…

…それが本当のきっかけだと思います？

恵美子 えっ？

山音 藤沢さん。

トキコ ご両親が離婚された後、お母さんが息子さんを引き取り、貴方はお父さん側に残ったんですね…

恵美子 …ええ…：そうです…

トキコ お母さんと何か確執があつたのですか？ もしくは…

山音 …：藤沢さん、あなた…：その話のために涼次さんを？

トキコ ああ、いえ、すいません。知り合いの依存症の女の子と似た感じだったの、つい…

恵美子 …：さすがですね。一線で活躍されてるライターの視線は。

トキコ 恐縮です。

恵美子 ほんと、つくづく類型的なんですね、私。元を正せば、定型的なエレ

トキコ クトラコンプレックス。

トキコ じゃあ、やはり何かしら性的な部分でも…

恵美子 今ではそう解釈してます。でも私にとっては憧れと紙一重。父親に気

に入られようと必死でしたから。

トキコ はい。

恵美子 気づいたら母親の視線が変化してました。娘に嫉妬する母親の視線。

トキコ はい。

恵美子 全てが繋がってますから。私という物質を通して…

トキコ …：やがて少しずつ自分の性への嫌悪が積もり、それを否定し、無理し

て外界の男性に恋愛を試みる(視線落とす)：

恵美子

ええ。…あの…大丈夫ですか？

トキコ

ああ、すいません。友達のエピソード思い出しちゃって。

恵美子

ああ、はい…

山音

藤沢さん。私からもちよつといいかしら。

トキコ

あ、はい。どうぞ。じゃあ、ちよつと失礼…

メモを整理するフリをしながら、固形栄養食を弄るトキコ。

山音

そうじゃなくて、アナタに。

トキコ

え？…ああ、はい。

山音

知り合いの、友達のために来たんじゃないでしょ？

トキコ

！……

山音

(恵美子に) お部屋に戻りましょうか？

恵美子

あ、はい、でも…

トキコ

取材はいつでも出来そうね。今日慌てて片付けなくても。

恵美子

え、じゃあ…

トキコ

…(立ち上がって) どうもありがとうございました。

恵美子

あ、はい…

頭を垂れたままのトキコ。恵美子に無言で促す山音。去る恵美子。椅子に座る容子。

山音

ま、どうぞ。

トキコ

…はい。

山音

何か飲みます？ 左手の食料もいいですよ。

トキコ

いえ…最初から分ってたんですか？

山音

いいえ。あなたの手の甲を見て。

トキコ

(反射的に右手を隠す)

山音

正式名称じゃないけど…吐きダコって呼ばれてますね。

トキコ

はい……。

山音

歯は大丈夫？

トキコ

ああ、今の所…

山音 ご存知だとは思うけど、嘔吐するのはね、ただ食べた物だけを吐いてる

んじゃないの。歯を溶かす胃酸はもちろん、体内に必要な電解質、代表選手はカリウムね、それらと一緒に体外に放出する。タイミング悪ければ心臓停止にもつながるんだからさ。

最前のセリフ中、「歯を溶かす胃酸」と「必要な電解質」だけを重複して喋る容子。むろん周りには聞えていない。

トキコ ……そうなんですか？

山音

それと…レアなケースではあるけれど…

トキコ

はい…

山音

貴方が望むなら、入院手続きも取れますよ。幸い2床ほど空いてるし。

トキコ

！……

山音

まあ、お仕事の都合もあるだろうけど…

トキコ

ごめんなさい…今回の取材、掲載の予定ないんです。私、連載終わって焦りだして、食べ物に走って…編集者の知り合いからも最近疎ましがられて…

山音

長期の取材旅行に出たと思うとかね。

トキコ

…ああ、はい。よろしく願います。

山音

じゃあ、時間外だけど、軽い検査からさせてもらいますね。ああ、まずは受付の登録が先か。

トキコ

…あの。

山音

はい。

トキコ

…自分が怖いんです…私、結構コントロールできるタイプだと思って

て、自分のことも、恋愛も…誰にも迷惑かけず、ちゃんと生きてきたのに

…それなのに…

山音

ええ。

トキコ

食べるのって、一番普通の行為でしょ？ ヒトが生きてくための。なの

に、なんで当たり前の事すら普通に出来ないのかって…

山音

それは…当たり前だからでしょ。

トキコ

えっ？

山音

いい子でいすぎたんですね。今貴方がおっしゃったように、平気で誰かを傷つけたらね、何処かで爆発できるような人はなれないのよ、拒食にも過

食嘔吐にも。
トキコ そうなんですか？

山音 確かにある種皮肉ですよね。登校拒否にも自傷行為にも向えなかった「優しい魂」が、生きるため不可欠な摂食にまつわる障害になる。

トキコ、容子 優しい魂？……

山音 まあ、慌てないで。今の恵美子さんなんかね、最近よく話してくれるのよ。「食べ吐き」は自分の友達だって。

トキコ 友達……ですか？

山音 最初は依存対象が憎かったけど、これも私の一部だって。「食べ吐き」がいろいろ教えてくれた。「食べ吐き」が守ってくれた。多分、それがなかったら今の自分はココにいないって。

トキコ はあ……

山音 さっぱり判りませんけどね、私にも。

トキコ えっ？

山音 不思議でしょ？ 患者さんに教えられることの連続よ。だから、ま、気楽に。

トキコ ……はい。

山音 それと……これまた思い付きなんだけど……よければまた取材の機会を設けますよ。

トキコ えっ？

山音 どうやら貴方の回復には欠かせないようだから。

トキコ ……はい。ありがとうございます。

山音 特例だらけですからね、ココは……じゃあ、こっち。

去る山音、トキコ。見送る容子。やがて背後に再び手旗信号の男達。

「あんてん」の文字を送る。

容子 「あ、ん、て、ん？」

容子の「ん？」の表情を残し、舞台は文字通り暗転。

【SCENE／4】暗いままの舞台。以下のセリフが先行する。

桜井の声

……文字通り暗転すると、2人はテーブルでゲームに興じている。

セリフ終わりで明かり戻る。桜井と涼次がテーブルを挟んで腰かけいる。桜井はノートに目を落としている。

コメントの追加 [はしぐち9]: カット

桜井 何なんだ？ 文字通りってのは……

涼次 どうぞ、先生の番です。

桜井 ああ、悪い悪い……えっと……あ、上手く繋いだなあ……

涼次 「せみ」と「たら」で3ポイントです。

桜井 くっぞお……（カードをめくる）

涼次 ……治療の一貫なんですか？ 患者さんとの。

桜井 え？……ああ、これ？ ああ、ゴメンね、締め切り近くて。

涼次 交換日記みたいなもの？

桜井 いや、劇の台本なんですけどね……これかな。3ポイント。

涼次 えっと……「おけ」に……「ほち」？……何です「ほち」って

桜井 あれ知らない？ 酒の肴だね。ま、この辺りでは珍しいけど……

涼次 どこの名産なんです？ 何かの別称ですか？

桜井 あれは……四国かな……これくらいいの、煮物が美味しいのね。

涼次 「ほち」ねえ……聞いた事ないなあ……

桜井 「ほちなべ」とかね「みようがほち」とかさ……

涼次 ……まあ、いいんですけど……

桜井 残念ながらココには辞書がありませんけどね……ちゃんと存在していますから。

涼次 ホントだ。

桜井 え……何？

涼次 見事に丁寧語になるんですね。自信がないときと、何か隠すとき。

桜井 え、なってた？

涼次 「ありませんけどね」って。

桜井 うそ。

涼次 「存在していますから」って。

桜井 ……そもそも誰に聞いたのよ。

涼次 え、有名ですよ。このクリニック中で。

桜井 つたく……だいたい何で付き添いのアンタが、病室の主みたく居座って

んだよ。

涼次 もう5日ですからねえ。

桜井 ……まだ寝袋で寝てんの？

涼次 いえいえ、2日前から近くのウィークリーに移りました。姉貴も気疲れするだろうと思って。

桜井 そう…麗しき姉弟愛だねえ…

涼次 ああ、いえ…

桜井 そうそう丁寧語といえは面白い話があつてね……ほら、随分前の総理大臣。えつと、コイズミ、コイズミ。

涼次 ああ、確か…郵政民営化を進めてる間に、女性郵便局長との不倫が発覚してあっさり政界追っ出された、でしたっけ？

桜井 ほら、あいつって、歴代の総理と違って、言葉を取り繕わない……っていうか、誰彼なく平素に喋る、気さくな感じあつたじゃない。

涼次 ああ、そうですね。本音で喋ってるぞって感じで…

桜井 相撲でも芸術でもさあ「いやあ感動した。君は凄いな」って…

涼次 ええ。丁寧語を使わない事で、ウソの無さを演出してたんですね。

桜井 それが、そうでもないのよ。

涼次 えつと？

桜井 昔からコイズミを良く知る政界の大御所が言ってたんだけどね、「あいつの言葉づかいには何度もヒヤヒヤさせられたんだ」って。

涼次 といいますと？

桜井 まだ秘書官だった頃から、現役の大臣相手に「いやあ感動した。アナタは凄いな」ってやって、脇で皆がハラハラしてたんだって。

涼次 え、じゃあ、イメージ戦略じゃなくて、ただ丁寧語を上手く使えなかっただけだったんですか？

桜井 思えば感情表現はすべて「凄いな」で片づけてたしね。

涼次 へえ。

桜井 なかなかの裏話でしょ？

涼次 「かに」。2ポイント。

桜井 聞いている？ 人の話。

涼次 ええ、もちろん。…あ、でも、裏話と言え…あ、まずいかこれはえ、何だよ。

桜井 ……怒ったりしません？ 丁寧語になったりとか。

桜井 ならないよ…「こけ」……んで何？

涼次 (カードを捲りながら) 出るんですってね、ココ。

桜井 え、出るって？

涼次 そりゃあ亡霊でしょう。死せる魂。

桜井 ココって、ここ？

涼次 ええ、このフリースペースです。夜な夜な米を磨ぐ音がしてね「誰？」って声をかけると、「もつと食べたらい、もつと食べさせて下さい」って懇願するんですって。若い女の声で。

桜井 ねえ、それ誰が言ってたの？

涼次 僕も人づてですが、どうやら出所はアルコールの人達みたいですねえ。

桜井 お姉さんは？

涼次 いえ、さすがに姉の耳には入れないようにしてますので。

桜井 上等ですね。

涼次 はい？

桜井 まあ、根も葉もない噂に決まってるけど、特に過食の人の耳には入れないでね。

涼次 ああ、はい。私にお任せください。

桜井 ホント、誰だよお前。

涼次 はい？

桜井 お姉さんは落ち着いてる？

涼次 ああ、ええ。今週も目標体重行けそうだって言っていましたよ。何か取材でいろいろ話したのがよかったみたいで。

桜井 あんたの存在もね。

涼次 あ、いや、まあ、そうだと嬉しいのですが…失礼します。

早苗、資料を持ち登場。

涼次 あ、どうも。

早苗 あ、また「もじもじ博士」ですかあ…へえ、結構強いじゃない。

涼次 でも、ココからが勝負ですからね。

早苗 えつと、ココは？

涼次 いえいえ、3ポイント狙いですから…

コメントの追加 [はしぐち10]: 他の部分では「入室」がよく使われてる

早苗 そつかあ…（桜井に）で？…

桜井 …（ノート見ながら）ちよつと気分転換。

早苗 ランチ。締め切り近いからって断られましたけど、懸賞付きの児童劇。

桜井 ああ、だから、ほら。セリフを考えるための気分転換。

早苗 それは売れてる劇作家のセリフです。

桜井 はあ、すいません。

早苗 なつちゃんと、友人の件、考えてくれました？

桜井 ああ、そうそう…じゃあ、また続きは今度。

涼次 え、そんなあ…

桜井 今日は完全に負けですよ。ほら。

500円玉を渡す桜井。ついでにゲームを片し出す。

早苗 クリニック内で賭け事はしないで下さい。ギャンブル依存を併発してる

桜井 ケースも多いんですから。

早苗 だから、ココでやってるんじゃない。

涼次 そういう話ではなく。

桜井 じゃあ、僕はこれ。

早苗 うん。またね。

早苗 ったく…

悪びれる風もなく元気に去る涼次。おもむろに椅子に座る早苗。

早苗 で、どう思われます？

桜井 ああ、若林なつみ？

早苗 だからそう言ってるでしょ？ そもそも私に任せて健康茶野郎と「ソー

キ庵」に行ったのは先生なんですからね。

桜井 まあまあ、家族とは連絡取れた？

早苗 それが…誰も出ないんです。まあ、もともと連絡取り難いお家だったん

ですけど…

桜井 でもねえ…どうなんだろう…例え、なつみ君が元彼の部屋に入り浸りに

なっていたとしてもさあ、そこまで干渉はできないでしょ？ 一応クリニッ

クにはちゃんと通って来てる訳だし。

早苗 でも、そのシナリオの中で彼の本名が登場してくるわけですよ。まして

多分自分をダブらせているヒロイン役の不倫の相手として。

桜井 まあねえ。

早苗 何らかの信号には違いはないんじゃないですか？ 誰かに気づいて欲しい

とか救済を無意識に求めているとかの。

桜井 いやまあ、例えそうだとしたってだよ、それが摂食行動を抑制してる可能

性だつてあるわけで、一概に干渉するのも…

早苗 続きは？

桜井 …えっ？

早苗 話の続き。送られてきたんでしょメール？ 怪しげな浜辺のコテージで、

ラブラブに海を見ながら隕石の落下を見た後。

桜井 なんか過剰に脚色してませんか？ 場所の設定。

早苗 私には閲覧の権利があります。

桜井 ああ、まあ…どうぞ。

ノートを渡す桜井。むさぼるように読む早苗。

桜井 嫉妬かな？ 登場人物への…

早苗 （キッと睨む）

桜井 ああ、いえ…

ポケットから取り出したペットボトルに口をつける桜井。

桜井 …昔は良かったたねえ。勇気を持つて頼まなくても、自然に熱いお茶と

か出て来てさあ…

早苗 （読むのを止め首を上げる）

桜井 ああ、いえ、今は…

早苗 何処までが先生のパートですか？

桜井 ああ…2人で隕石を見つける件までね。潜水用具を近くのショップで

借りて。

早苗 ヤマザキ「ボディースーツの君も一段とセクシーだよ」

桜井 いや、ある程度合わせないとさ、ヤマザキのキャラを…

ヤマザキ「君一人では行かせられない。僕も行く」

桜井 いや、それはやっぱ会話劇だからさ。ほら、主人公チヒロが一人で潜って独白ってわけにも行かないでしょ？ 潜水具つけてこう「もごもご」やっててもさあ：溺れそうだし：

早苗 つまり、2人で潜った後がなつみさんのパートなんですわね？ んで、その見つけた隕石が実は宇宙船で、やがてヤマザキだけが死んでしまう：ここはなつみさん本人が書いたと：

桜井 うん。まさかいきなり殺されるとは思わなかった、しかも宇宙人に。

早苗 宇宙人A「カナシマナイデ、チヒロ」

桜井 おお、上手い上手い。

早苗 次に宇宙人D：：：おい、いきなりDかよ。BとCは何処行ったんだ？

桜井 まあまあ。

早苗 宇宙人D「コノオトコハ、キミニトツテ、タダノレッスン。ワタシタチトノタビダチノ、ヒトツノキッカケ。モウ、ヒツヨウナイソンザイ。サア、チヒロ。タビダトウ、キミノ、ツギノステップへ」って。

桜井 苦手なんですよ、分析は。

早苗 ほらまた丁寧語。

桜井 ああ：：：あ、そうか、君、心理出身だっけ？ 大学院。

早苗 んで？

桜井 まあ、気にならないと言えはウソになりますねえ：

早苗 逃げないで下さい。先生なりの分析を聞かせてください：

桜井 だから苦手なんですよ、それに：

早苗 それに何です？

桜井 分析だけじゃなくてさ：：：なんて言うのかなあ、

早苗 何です？

桜井 前にも言ったけどさあ、僕、患者さん2人死なせてるでしょ？ その内の一人：：：分析に答えを求め過ぎて、生身の変化に気づかなかったのね。

早苗 先生：

桜井 だからさ、その、なつみ君の友達：：：えっと、

早苗 小山内優です。

桜井 そうそう。彼女の言う事を疑ってるんじゃないけど、あまり気にし過ぎない方を選びたいのよ。なつみ君の担当である以上、面と向ってるなつみ君の情報を信じたいって言うかさあ：：：ああ、ちよっと違うんだけど：

早苗 はあ：：：：

桜井 ごめんね、押し付けておいて：

早苗 いえ：：：でも、じゃあ私、そのうち個人的に、小山内さんにもう一度会ってもいいですか？ 連絡先も聞いてあるので。

桜井 うん、ぜひ。でも院長には：

早苗 ええ、帰り道にでも。あくまでプライベートで。

桜井 よろしく。ああ、それと、このお芝居の台本の事だけどさあ：：：

山音 お待たせえ。

白衣姿の山音院長が入室。

山音 ：と云っておきながら、そんなに待たせてないわよね。

桜井 ええ、全然。

山音 何時だっけ、そのパソコン関係の人が来るの。

早苗 えっと：：：20分です。

山音 そう。じゃあ、ま、手っ取り早く確認しましょうか？ あ、これ：

桜井 ああ、すいません。これは：

山音 「もじもじ博士」でしょ。

桜井 ええ：

山音 じゃあ、シヤフルして。

早苗 あ、はい。

桜井 …えっと：：：じゃあこっちの方もと：：（資料配りつつ）今週の大まかな

のと来週の前定、適当に拾い出しておきました。

山音 （受け取って）毎度：（見ながら）断酒会の方はどうです？

桜井 ええ、4回目のクールを無事終わりました。坂下さんがまた顔見せてませんけど：：：

山音 「たこ」

桜井&早苗 えっ？

山音 どうぞ。：：芳野先生は？

早苗 ああ、ええ。順調ですね。先回は奥様も同伴でした。

山音 値も下がってる？

早苗 ええ。口数とは反比例してますが。「しり」

山音 ああ、はいはい。まあ、お喋りに付き合うのも仕事ですからね。

桜井 「かす」：：クイズやられた？

コメントの追加 [はしぐち11]: ここは「磨ぐ」ではなくてもよい？

早苗 ああ、はいはい。

山音 え、クイズ？

桜井 最近の芳野さんの高等技術です。適当に相づち打つてると急に設問が始まるんです。

山音 へえ。」「こめ」

桜井 「さてそこでわしは何と想ったでしょう？ 1番・驚いた。2番・けっこう驚いた。3番・まま驚いた」って。

山音 微妙だなあ、それは。

早苗 で、当てたら当てたで解説が長いんです。「げそ」

山音 判りました。じゃあ、私は会わないようにします。

桜井 そんなあ…

山音 (資料のページめくって)で…まあ、摂食のほうはいろいろバタついたけど…そうそう、若林なつみさんの方は大丈夫？

桜井 ええ…はい。

山音 友達が押しかけて来たんでしょ？ 時間外に。

桜井 あああ、はいはい。

山音 ウチの場合、警備モニターより優秀なのがいいますからね。受付に若干一人。インシヤルはK。

桜井 ええ…でもまあ、あくまで第3者の情報ですし…ちようど明日通院日になつてますので、それを待つて対策をと。

山音 それがいいでしょうね。シナリオの方もよろしくね。

桜井 あ、はい。「とら」

山音 「くも」。(早苗に)いつだっけ？ 国家試験。

早苗 ああ、再来月です。

山音 頼みますよ。即、ひと部所あてがいますから。

早苗 はあ…でも(桜井に視線)いろいろ雑務も多くて…

山音 意外との方がいいんだってよ。試験の本番ギリまで現場で関わつてた方が。

桜井 ほら。

早苗 そうですかねえ…「わな」

山音&桜井 ……

桜井 えっと、それで…小坂恵美子も落ち着いてきてますし…ああ、藤沢さんは院長の担当でいいんですよ。

山音 まあ、乗りがかった船ですからね。

桜井 …親の会も次回はゲストなしですし…こんなトコかな。「せみ」

山音 なんだっけ？ これから来る何とかサービス。

早苗 墓守サービスです。

山音 ああ、それそれ。そつちはお願いね。まあ、仁科容子さんがらみなら多少の経費回してもいいから。

桜井 はい。

山音 それって雑費？ 慶弔費？

早苗 さあ…ある種の、厄払いですからねえ…

桜井 あ、そうそう、厄払いって言えば…どうも変な噂が流れてるそうで…

早苗 え、何です？

桜井 まあ、誰かの冗談から発したと思うんだけど…

山音 (カードを考えながら)米を研ぐ奴ですね、深夜に。

桜井 ああ、院長もご存知でしたか。

山音 あれは、あまあねえ…

早苗 何です？

山音 風向きとかにもよりますからして…

桜井&早苗 はあ…

山音 よし「さる」と「へら」。3ポイント。じゃあ、そんなトコかな？

早苗 月見会は去年のような感じでいいですか？

山音 ああ、えっと、来週？

早苗 はい。あ、「つき」

山音 屋上だったよね。

早苗 ええ、食事しながら朗読会して…2次会がこの部屋で簡単に。

山音 (桜井に)どう？

桜井 えっと…パス。まあ、いいんじゃないですかね。

山音 じゃあ私の勝ちね。

桜井 えっ？

山音 順位も決まつたし。

桜井 そんなあ、だつたら今パスした意味が…

早苗 2次会で沖縄そばつてわけにも行かないでしょう？

桜井 あ、スピーチは勘弁してくださいよ。

山音 えゝ、駄目よ。去年と違って、今年はれっきとした室長様なんだから。

早苗 あ、院長、それ最近の流行では…

桜井 早苗くん。

早苗 あ、はい…

山音 …え、何？

桜井 とにかくメインは院長でお願いしますよ。僕はどうせほんの一言しか喋れませんか。

山音 まあ、じゃあ考えてみるけど…（早苗に）何よ。

神谷の声 どうもおゝ、失礼いたしますゝ。

桜井 あ、何か凄くいやな予感。

山音 え、何が？

鞆を持った神谷が登場。入り口で止まり素早く3人を確認して、

神谷 どうも始めまして。私、メンタルネットサービスの神谷と申します。

山音 どうもご丁寧に…（名刺受け取り、返して）院長の山音です。

神谷 ああ、どうも。

桜井 出るならこの後だな。

早苗 え？ 手品ですか？

桜井 や、そうじゃなくて…

神谷 おや院長様…こんなところに来くずが…

山音 えっ？

見事に院長の肩から小さな花を出す神谷。

神谷 これはこれは、チューリップでした。

早苗 出たあ。

山音 あら、まあ。

神谷 どうぞ。

山音 ああ、ありがとうございます。

神谷 いえ私の方こそ、ホントにこのたびは、こちらの…

桜井 桜井です。

神谷 ええ、はい。桜井分長様にはいろいろお知恵を拝借しておりまして…

吹き出す山音、早苗。肩を落とす桜井。

神谷 あの、何か？

山音 いいですねえ、それ。そもそも文鳥つてのは…

桜井 院長。

山音 ああ、ゴメンゴメン、えゝつと、ちよつと待ってね…（背を向け納得するまで笑った後）まあ、どうぞ。

神谷 はい、失礼します。

桜井 ……。

山音 えつと、まあ粗方の事はこちらの、分室の長から伺っておりますが…

神谷 私、恥ずかしながら全くの機械音痴でして…

山音 ああ…はい。ああ、いえいえ。

神谷 主旨の方には賛同させてもらえそうですので、細かい所はこちらの、桜井ブンと、進めていただけますでしょうか？

神谷 はい。恐縮です。

山音 まあ、私から一言だけ言えるとしたら…（カードをめくって）

神谷 「かに」？

山音 ああ、はい。2ポイント。

早苗 知ってる。

桜井 流行ってるのか？

山音 じゃあ、私は少し片付けモノがありますので…桜井さん、よろしく。

桜井 合点承知の介。

山音 ん？

神谷 では、ココで失礼いたします。

山音 ああ、それと、お花ありがとうございます。

神谷 いえいえ。

花を掲げて悠々と去る山音。

神谷 素敵な院長さんですねえ。

桜井 そうですかねえ…

早苗 で：何か判ったんですか？ わざわざいらしたという事は。

神谷 ええ、まあ、お茶でもいいかですか？

早苗 いえ、結構です。

桜井 ああ、私も。

神谷 そうですか……じゃあ：誰からの番で？

早苗 はい？

桜井 ああ（慌てて片づけて）これはもういいです。それより：昨日いただいたメールでは、大きな進展があつて、それゆえ余計に謎が謎を呼んでるとか……

神谷 ええ、はい。では少しだけ整理させてください。

桜井 どうぞ。

鞆からパソコンを出し、立ち上げる神谷。

早苗 電源取りましようか？

神谷 いえ、大丈夫です。それと（操作）：あえて時間を遡ってお話しますね。仁科容子さんは亡くなる3日前に「しずかなごはん」というタイトルの散文をアップされた。それがこれ。先日コピーでお渡ししたモノです。

早苗 ええ。でも何？ お米を炊く前の、いわゆる洗米の仕方があれこれ書いてあつて、よく意味が分らなかつたんですけど。

桜井 そうだねえ。特に暗示的なモノもなくて、強いて言えばタイトルかな。

早苗 「しずかなごはん」。全部ひらがな。

神谷 そして、これが死の直前。飛び降りる前に書かれただろう文字化けのメッセージです。

桜井 ほんとだ、酷い文字化けだなあ。

早苗 でも結構短いですよねこれ。

神谷 ええ、それも解説を拒んだようですね。もう少し長ければ出てくる文字の頻度によって探る方法もあるんですか……

桜井 いわゆるシャーロックホームズの解説だな。

早苗 何ですそれ？

桜井 まあ、いいや……で？ 何か進展は？

神谷 ええ、まだ読めてはいませんが、海外の友人に見せた所、データメな羅列ではないそうです。確かに何かの文章になっているって。ただ、どう

やら文字化けというよりは、意図的に隠されてるようですね。

桜井 つまり：何かのキーワードで処理しないと、正しく変換されないと。

神谷 さすがは分長様。

早苗 あ、わかった。

桜井&神谷 神谷 えっ？

早苗 それが「しずかなごはん」なのよ？ だからキーワード。

桜井 それは違うでしょ。

早苗 えっ？

神谷 それは僕も何度もやりました。多分警察も真っ先にやつてるはずですよ。

早苗 あ、そう……

神谷 それは一旦置いておいて、（何か操作）意外な進展を見せているのがこっちで……暫しお待ちを。

桜井 えっと、時間を遡っているんだから……ああ、そうか、この前、多分悪戯だろうって言ってた奴ですね。

早苗 ああ、死んだ仁科さんを名のつた書き込み？

神谷 はい。私も少し事態を軽く見てまして、それでご紹介しなかつたんです……これでですね「月は満ち、一頭の午と一羽の酉が天かける。私を殺した『しずかなごはん』を成敗せよ。機は熟した。皆で夜空に繰り出そう」。

桜井 ここでもまた「しずかなごはん」か。

早苗 今度は私を殺した、ですもんね。成敗しろとか。

神谷 ええ。まあ、前の「しずかなごはん」は公開情報ですから、だれかが真似て作つたとか高を括っていたんですが……

早苗 じゃあ、悪戯じゃないの？

神谷 どうにも特定できなくて……なぜか履歴にアドレスが残っていない。普通これだとアップしようがないんですね。

早苗 じゃあ……亡くなった仁科さん本人が書き込んで……

桜井 まさか、

早苗 あ、どこかの、そう、霊界にあるマンガ喫茶あたりから……

2人 ……

桜井 どうぞ、話を先に。

神谷 ええ。問題はその後なんです。自動スクロールに指定しないと面倒なほどで……ほら。

桜井 これは……書き込みですね。アクセスした人からの。

神谷 ええ。先日こちらに伺ってから今日までに、1日に100件近い書き込みがされている。亡くなった直後よりはるかに多い。

桜井 つまり「死者からのメッセージ」に対する反響ですか…

神谷 まあ、大半は冷やかかしんですが、でも、ほら、これとか。

早苗 例の文字化けじゃないですか。

神谷 ええ、ほらココにも。10件に1つの割合で、文字化けの文章が入っている。

桜井 そうか、つまり：神谷さんの仮説はこうですね。一般アクセスの中にも、キーワードを知っている人達がいて、今でも相互コミュニケーションを持っている。

神谷 ええ。文字化けを装った秘密のネットワーク…とも言いますか…

早苗 あ、でも、今文字化けで書き込んでいる人のアクセスは判るんでしょう？

神谷 いい所ついてきますねえ。もちろんそれは履歴にも残ります。

早苗 じゃあ、問い詰めれば判るでしょ？ キーワードも。

神谷 それが…どうやら警察の方が手を引いたようなんです。自殺と結論出したんでしょうね。そうなるとさすがに個人情報に介入はできなくて…僕も試しに個人メールで尋ねてみたんですが、返答は一切ありません。

桜井 事務所の方は？

神谷 全くのノークメントです。社長の出光って人が堅物で。

早苗 あ、知ってる知ってる。事件報道の時に大袈裟に泣いてた人ね。

桜井 この時々書いている菱田って人は？ 何か関係者っぽいけど。

神谷 ああ、もとマネージャーとか言ってますね。詳しくはないんですが、亡くなった当時、マネージャーは3人体勢だったようです。他は確か、赤井さんと桐山さん。

桜井 今の所、文字化け以外で摂食関係の話題は出てないか…

神谷 ええ、そこなんですよ。

早苗 どこです？

神谷 念のためと、亡くなる以前の交信記録を探ってみましたですがね…

桜井 所々に文字化け文章があったと…

神谷 ええ。…で、ココからは私見なんですが、もしかしたらこれ、この文字化け関係が、全部ご病気に關する事なんじゃないかなって…

早苗 ああ、ああ。

桜井 まあ、ありえますねえ…摂食の人達同士での秘密のネットワーク…

早苗 え、じゃあ…

この辺りで、音もなく部屋に入ってくる白い衣装のなつみ、恵美子、トキコ。やがて少し遅れて容子。

桜井 前のに戻してくれませんか？ 「月は満ち…」つての。

神谷 ああ、はい（操作し始めて）…ああ、そうそう、今お見せした分は全部プリントアウトしてこちらにも。

桜井 ああ、どうも。

早苗 「月は満ち、一頭の午と一羽の酉が天かける。私を殺した『しずかなごはん』を成敗せよ。機は熟した。皆で夜空に繰り出そう」。

米を磨ぎ始める容子。容子以外の3人は持っていたスナック菓子をゆつくり、しかし絶えず口に運ぶ。

桜井 ……うん、これが先週でしたよね。

神谷 はい。

桜井 何だかこれが全ての謎を握ってる感じがするなあ。

早苗 なんか、促してますよね。さあ、今こそ書き込もうって。

桜井 そうそう。

神谷 ちなみに午と酉は干支の文字。十二支の表記ですね。…（周囲の気配を何となく感じて）ん？

早苗 ええ、確かに…

桜井 えっと、時計で言えば6時と9時。方角だと南と西か…。あの、どうかしました？

神谷 ああ、いえ…

早苗 何か名探偵気分ですね。「謎はすべて解けた！」とかって。

桜井 解けてないけどね。

神谷 んん！（お祓いの奇声か？）

2人 ……

神谷 コナン出ましたけど。

2人 ……（立ち上がる）

神谷 ああ、すいません。

呆れて素早く去る桜井と早苗。慌てて追いかけて去る神谷。完全に不条理な空気に支配される空間。

【SCENE / 5】 米を磨ぐ容子。スナック菓子を食べ続ける3人。

容子 「月は満ち、一頭の午と一羽の酉が天かける。私を殺した『しずかなごはん』を成敗せよ。機は熟した。皆で夜空に繰り出そう」。

食べる手を止め、それぞれの椅子に向う3人。ネットへの書き込みを始める。

なつみ 岩手のネル坊です。3週間ぶり？ 元気に摂食してまゝす。この前、初めて自助グループの会に参加してきました。最初はどろいしていればいいか判らなくて、ただ座ってたんだけど、一人ずつ喋るの聞いてたら落ち着いて来て、自分の番になったら結構いろいろ喋れちゃいました。思えば私、中学までは、自分から皆に話題を提供するタイプだったのね。面白い話するの得意だった。そんな事を思い出しながら話してました。

恵美子 最初に無くなっていたのは体育館用の上履きでした。小学4年生の秋。ぼっかり空いた下駄箱の暗闇は、とても深い予感をさせました。これから毎日続くだろう私の大好きなモノたちの喪失。お弁当箱、靴、鞆、教科書……でも不思議なことにそのとき私は、それを防ごうとするよりも、母親への言い訳に頭を悩ませていたのです。

なつみ 喋り終わって私、とっても素直になってた。なんでだろうって。あ、そうかって。ココにいる皆が同じだからか、って。カッコ付けたり、照れ笑いで誤魔化しても無駄なんですね。同じ事、みんなしてるんだから……まあ、だからと言って喋ってないことも沢山あるんですけどね。

トキコ 鹿児島の子です。いきなり不躰ですけど、容子さんはどうやって吐いてますか？ 私はもっぱら指なんだけど、あまり長くない方だから、前歯で手の甲を傷つけちゃって。吐きダコって言うんですよね。歯ブラシ使う人もいるって聞いたけど……。

容子 富山のカーミラさんへ。私はまだ自分が食べ吐きしてる事、誰にも話し

てないの。そう、このサイトだけ。だからきつと大丈夫。セキユリティーもマックス嚴重だし、何より私は皆を信じてるから。

恵美子 一番ショックだったのは、そのいわれなき悪意の始まりが、夏休み明けの木曜日だったコトでした。きっかけが判らなかった。夏休みの間、私は最高の時間を家族と過ごしていました。楽しすぎて気が緩んだのです。私は明らかに迂闊でした。多分、楽しすぎて誰とも連絡を取らない間に、着実に私への計画が進んでいたのです。

トキコ 吐く時って、何か飲んでやりますか？ 冷たい水とか薄い炭酸がいいって聞くけど、私はもっぱらぬるま湯です。冷たいのが逆流すると気持ち悪いので……これも聞いた話だけど、色の残る食べ物を最初に食べるんですってね、過食の時。御豆腐とかジャムパンとか。それが出たら吐くのを止める。ノルマ達成って感じ？ でもそれって逆に回復にも使えないかなあ。必要栄養素を先に食べて、その後で色の付いた食品を食べてね。そうすれば……

恵美子 痛みには慣れていく。訴えないのは仕返しに怖いからじゃない。そしてそんな日々は丸5年続き、やがてあっけなく幕を下ろしたのです。中2の春。私はグループに迎えられました。そう、牙先が変わったのです。新しい獲物。私は自分の新しい居場所を守るために、その子にいろんな事をしました。食べて吐くようになったのもその頃。やられていた頃ではないのです。そして少しの罪悪感。そのホンの少しが私に食べ物を要求する。まるでやられてた頃のリアリティーを取り戻すかのよう……

容子 ねえ、みなさん？

3人 (手を止める)

容子 容疑者は見つかりましたか？ 貴方達をそんなにした容疑者は？

先ほどの倍のスピードでキーボードを叩き出す3人。

なつみ 親身なアドバイスが続く。「そんなに食べるから吐くのよ」「吐くつてホントに汚い行為なのよ」って。知ってるよ、そんな事。3年も前からさ。

恵美子 体重減って、まずは生理が止まるでしょ？ それで病院いく子もいるらしいけど、私はむしろ気分が良かった。何か女から脱出できたよう。

トキコ 栄養が体に溜まらない。肌がでこぼこしてきた。3日前、家具で引っかけて手の甲に作った傷がまだ紫色に残ってる。明らかに傷の治りが遅くなる。胃酸は集中的に下の前歯を直撃する。もう以前の自分じゃない。

なつみ ヒステリーの語源って知ってる？ 元々は子宮のことだったんだって。そういえばダイエットって言葉も「1日のうちに摂取すべき食事の量」って意味だったんでしょ？

容子 事務所の奴らは、さも当然のように私のカラダを要求した。そんな痛みは痛みではない。むしろそんな事で状況が変わっていくことが快感だった。でも私は甘かった。「暗い目をしたカリスマ」「今世紀最初の陰ある女優」そんな世間の評価が、私の食べ吐きをますます加速させていく。そしてある日……

トキコ 吐くという行為は体にとっては過負担だから、脳内からエンドルフィンが放出される。痛みを和らげ快感に変える麻薬。私は戦場で傷ついた戦士のように、その日1日の戦いを終えて眠りに就く。

恵美子 「依存症になり易いタイプの女性」というパンフレットを病院で貰った。4つの項目が、全て母親の口癖と一致していた。驚くことにそれはすべて母親が私に強制した「女らしさ」だったのだ。

容子 自分のサイトに気付かれた。慎重に作り上げたはずなのに、やはりハイエナの嗅覚は侮れない。そして、事務所の連中は「食べ吐き」を売り物にしようと思んだ。カメラの前で吐けないかと相談された。プレゼン用だから気軽に。生まれて初めて殺意を感じた。

トキコ 世の中に新商品が溢れ出す。今日買ったモノは明日には興味を失っている。街には刺激が多すぎて、慌てて帰路に立つ私にコンビニが待っている。**なつみ** 彼とレストランで食べながら「帰ったら吐かなくや」と思ってる。自分の下宿でセックスしながら「彼が帰ったらいっぱい食べよう」と思ってる。リアルな時間はすべて食べ吐きで支配されている。

恵美子 拒食になると肩がこるでしょ？ でも針は禁物なんだって。針がするつと肺に届いちやって肺の空気が抜けちゃうんだって。

容子 奴らの計算違いは明確だった。まだ私が業界に未練があると思っていたこと。私は事務所の全てを暴露するよう準備を始めた。だが、やはり私が甘かった。ただ単に、シナリオは向こうの方が上手だったと言うことだ。

なつみ コンビニの商品管理は万全だから、なかなか素通りを許さない。本当に体が食べたい物には気づけない仕組みになっている。

トキコ プラトンって偉大よね。はるか昔のギリシャの頃に「心の面を忘れて体が治せるわけがない」って予言したんだって。え？ 予言が変？

恵美子 小さい頃、親からよく「しつかり食べないと大きくなれないよ」と言

われたものだ。満腹の快感はすでに染み込まれている。別に満腹しなくてもちゃんと成長する事に気づいた時には既に手後れだった。

なつみ だいたい「ちゃんとした大人になれ」とはどういう論理なのだろう。今こんな社会を見せ付けられて、「あんたたちのような大人」になりたいと本心願うと思っているのだろうか？

容子 本当にそれが敵ですか？ 貴方を傷つけた犯人ですか？

文字を打つ手を止める3人。やがてゆっくり立ち上がり歩行を始める。それに紛れ、男3人の影が現れる。無言で密談する男達。

恵美子 心の何処かに本当の自分が居て、生活する私を見ている。英語で言うなら自分が「アイ」で私が「ミー」。アイはミーに、イメージ通りに社会に存在してもらわないと困ってしまう。

なつみ 私の体はブラックホール。周りの全てを飲み込んで、無に返していく作業。私自身はくたびれるけど、そうでもなければ居る意味がないでしょ？

容子 深夜2時、もうすぐ奴等はやってくる。睡眠薬入りのワインを携えて。自殺には最も適当な時間。そしてそれは確かに、私が最も自信がない時間。最も無防備で投げやりな時間。どこまで抵抗できるのか、どこまで生への力が残っているのか。最も自信が持てない時間。

トキコ 私がこんなになる前はね、過食って、異様に太った、150キロ超えて部屋から出られない人達だと思ってた。今では彼らすら羨ましい。きつと食事は美味しく食べていると思うから。

恵美子 嫌なことが重なって「自分」はへとへとに疲れ気が緩む。その隙に「私」が食べまくる。我に返って驚いた「自分」は「私」の喉に深く指を差し込んで胃の中を空にする。「自分」はそんな「私」に絶望し、ちよつとしたきつかけで気が緩む。

この辺りから部屋に忍び込む優。手にはナイフ。

トキコ 古代ローマのネロ皇帝も自分では歩けないほどの太っちよで、城の中を移動する時、数名の奴隷に担がせていた。人々に自我の発生は見られず、自分と私が一体である幸せに満ちていた。

なつみ 18世紀、7歳のアリスは赤ん坊に嫉妬した。母親の母乳を飲み続け

る赤ん坊に「この子が死なないなら私が死ぬ」と宣言し、完全な拒食を貫き自分の言葉を実証した。人類最初の拒食である。

容子 どうかこの楽しいお喋りが、この秘密のサイト自体が、皆さんにとって新しい依存のカタチになりませんように。新しい逃げ場所になってしまいませんか。静かな警戒は必要です。私にはもうあまり時間がありません。でもいつか、もしこのホームページをたまたま見かけたら……

優 アリスは自分がアリスであるために拒食を貫いた。自分の自我だけを武器にして。母親のせいにも社会のせいにもしなかった。

男達の内の一人の影に向かい走るも、誤って容子の背中を刺す優。部屋を去る3人の女性と男達の影。ゆっくり跪く容子。

容子 ごめんね、アンタまで巻き込んで……

我に振り返り走って部屋を去る優。

容子 もう止めにしませんか？ 犯人探しは。

早苗が駆け込み、部屋の明かりが戻る。

【SCENE／6】 早苗、部屋の違和感を気にしつつも、気を取りなおし、持って来た大きな紙を壁に貼る。それは手作りの大きな50音表。早苗、赤マジックを取り出し、文字に丸を記入する。

早苗 し、ず、か、な、ご、は、ん……

赤丸の図形をいろんな角度から眺める早苗。何かに満足し、静かに去る容子。やがて白衣姿の桜井。

桜井 ちよっと休憩……

早苗 どうぞお……

桜井 ……え、何それ……小学生の患者？ 過食？

早苗 いえいえ。

桜井 じゃあ：アルコール？

早苗 あまり笑えませんがね。飲酒依存の低年齢化も進んでいますので。

桜井 だから何？

早苗 午と酉が暗礁に乗り上げたんで基本的に帰ろうかと。

桜井 ああ、しずかなごはんね、平仮名の。

早苗 サソリかな？

桜井 さそり？

早苗 ほら、こうしてこつちから見ると：ハサミがこれで……

桜井 図形に走るなよ。それは気休めでしょ。

早苗 午にも酉にも見えないし……午が南で酉が西でしたよね。

桜井 うん。ネットで仁科容子のマンション調べてさ、地図の南西方向を全部

検索したけど全然外れ。ひよっとして事務所関係者とか住んでないかと思っ

ただだけだね。

早苗 やっぱこれだな、この中に……

桜井 国家試験はいいの？ 精神保健福祉士。福祉士が鬼門だよ。

早苗 何かこれをクリアしない限り受からない気がして。

桜井 勉強しない限り受からんでしょう？

早苗 濁点にヒントがあるのかなあ……

桜井 逃避行為だって。謎解きに依存してますよ。

早苗 うん……

桜井 あ、ねえ、聞いた？ 怪談話。

早苗 え、この部屋のですか？

桜井 増殖してますよ。

早苗 えっ？ 増殖？ 話が？

桜井 話も人も。話し声が数人に増えて、どうやらココからちやっかりネットしてるらしい。

早苗 マンガ喫茶じゃなくて？

桜井 ん？

早苗 やっぱアルコールの人達？

桜井 うん。よくもあれだけ次から次に話が作り出せるもんだよね。まあ、看にしない分マシだけど。

早苗 でも都市伝説って、何かしらリアルな闇の部分がないと発生しないっていいですからねえ。

桜井 おいおい……じゃあ、片目を閉じて。
早苗 はい？
桜井 いいから読んで。

アンテナペンを延ばし 文字を差していく桜井。従う早苗。

早苗 こ、ん、や、あ、い、て、る？
桜井 凄いい、完璧だ。

早苗 試験問題集片手でよければ。

桜井 うん。……でも、よく見えるねえそこから。ああ、そうか。50音で並んでるから察しがつくか。

早苗 「こ、ん、や」の辺りで話の察しがつきましたけど。

桜井 いや、この前、免許の書き換えだったんだけど、危ない所だったから。女性の試験官を口説いたんですか？

桜井 まさか……だいたい交通課の視力検査って、あの虫食いドーナツだから。

早苗 ああ、上下左右を答える奴ですよ……ん？

桜井 口説きようがないでしょ？ 上、右、右、下って言っても。

早苗 喋らないで下さい。

桜井 えっ？

早苗 今、何かが引つかかって……ああ、そうか。

桜井 何よ。

早苗 ついつい時計や方角で考えてたけど、単純に右と左でもいいわけだ。

桜井 ああ、まあねえ、午が下で酉が左……あ、じゃあ。

早苗 (表に近寄り) ずらすんじゃないですか？ 左と下に。

桜井 いやでも濁音があるからねえ。例えば「ず」を2つ左に行けばもうナ行だから文字としては対応しない。

早苗 ずらすのは一つでしょ？

桜井 何で？

早苗 だって午は1頭、酉も1羽だったから。

桜井 ああ、そうか……とすると……！……メモして。

早苗 ああ、はい。

桜井 えっと……「か」は「し」になって、「こ」は隣に来て次だから「だ」、ちゃんと濁音になってる。それで「し」が「つ」で「ず」が「で」……後は

「ひ」「み」で、「ん」が「い」かな。どうなった？

早苗 「しだつでひみい」

桜井 なんだって？

早苗 「しだつでひみい」

桜井 なんだそりゃ？

早苗 シダックスで秘密のイチヤイチャ。

桜井 訳わかんないでしょ。それ願望？

早苗 あ、セクハラ。

桜井 あーいやいや、ちょっと見せて……ほら、ちゃんと隠れてるじゃない

小林君。

早苗 角田です。

桜井 アナグラムだよ。例えばこう読むと……

早苗 イ、デ、ミ、ツ……

桜井 残りが？

早苗 ヒシダ……出光、菱田。……じゃあ堅物のお涙社長と元マネージャー？

桜井 御手柄だよ角田君。

早苗 じゃあ、これが文字化けを解くキーワード？

桜井 急いだ方がいいなあ、ねえ、早速神谷さんに報告して。あまりに繋がら

なかったら僕から警察に。

早苗 え、いきなり警察ですかあ？

桜井 だって最新情報で幽霊はこう言ってるんだよ。「私は『しずかな』はん』

に殺された」って。

早苗 あ、じゃあ……

山音 ちよっといいかしら。

2人 わあ。

山音 何よ人を妖怪みたいに……どうぞ。

山音に促されてトボトボ入ってくる優。

早苗 あら、小山内さん……

山音 2人とも時間ある？

桜井 ああ、いえ、こっちも急な展開でして……僕だけじゃまずいですか？
山音 仕方ないわね、じゃあそれで。

桜井 じゃあよろしく。

早苗 あ、はい。

山音 あ、ちよつと待つて角田さん。

早苗 はい……

山音 (桜井に) 若林なつみさんは終わつた？

桜井 いえ、これからです。

山音 来てはいるの？

桜井 ええ、さつきもチラッと、ああ、多分屋上ですね。いつも会う前に一服して来ますから……

山音 そう……じゃあ角田さん。先にココへ来るよう伝えてくれない？ 勝手に

入れてくれていいから。

早苗 あ、はい。では……

優を気にしつつも去る早苗。

桜井 まあ、座りません？

山音 そうね、大丈夫だから。

優 はい……

所在なさげに座る優。

山音 ちようど良かったわね。

優 はい。ホントすいません……

桜井 あの、若林が何か？

山音 ああ、そうじゃないんだけど……入り口でね、余りに挙動不審だったから声掛けたのよ。

桜井 ええ、はい。

山音 そしたら泣き出しちゃって、最初是要領を得なかったんだけど……

なつみ 優？

入り口に立っているなつみ。立ち上り視線を外す優。

なつみ どういう事ですかこれ？

桜井 いや、その……

山音 まあ、掛けて若林さん。

なつみ ……はあ。

山音 さ、貴方も……どうする？ 自分で話せる？

優 はい。

椅子に腰掛ける優。わざと遠い椅子を選んで腰を下ろすなつみ。

優 ……ゴメンなつみ。

なつみ どう言う事よ。

優 その……私、やつちやつた、崇。

なつみ え？

優 殺しちゃった、私が。

桜井 えっ？

優 ゴメン……

首をうな垂れる優。無視のまま微動しないなつみ。

桜井 院長……

山音 自首する前に一目なつみさんにつて……

桜井 じゃあ……現場から、その足で？

山音 状況が分らないから、とりあえず救急に連絡してみたら既に車は向つてるようだった。慌ててブン屋を装ったけど、命のことまでは判っていない。

桜井 じゃあ警察もぼちぼち。

山音 そう。あまり時間がないわね。ちゃんとこちらから出向いた自首にしないと、後で酌量に違いが出るから。

優 ゴメンなつみ。

なつみ どうして？

優 ホントにゴメン。

なつみ 何を謝ってるの？

優 だって……

なつみ だって何？

優 ……なつみは一人で戦ってるのに。自分の命まで掛けて戦ってるのに、私、

勝手にカッとして……

なつみ ……

優 やり直したくて、なつみと。

なつみ ……馬鹿じゃないの……

優 うん。

なつみ ……どうして。

優 ……あんたと別れてくれて言いに行ったの。あいつ、何かHなビデオ見て私と気づかずに、別の女だと思って「おう、入って入って」って「これすげえんだよ」って……気づいたら持ってたナイフで刺してた。

目を伏せる優。無視し続けるなつみ。

桜井 ……あのさあ、小山内さん。

優 えっ？

山音 桜井さん？

桜井 なつみさんお芝居の台本書いててね、その中で不倫相手のヤマザキって奴が死んじやうのね。

優 ええ、読みました。早苗さんから借りて。

なつみ 読んだの？

桜井 ああ……僕が角田さんに頼んだんだ。

なつみ ……

桜井 読んでくれてたなら話が早い。宇宙人Aは君だ。

優 えっ？

なつみ ……

桜井 それから宇宙人Dも君だ。

優 先生……

桜井 舞台は文字通り暗転し、やがて合体し「優」と名乗った宇宙人と、ヒロインなつみは旅をする。広い宇宙を2人きり、無限の退屈な時間を、シンプルなゲームで過しながら。

なつみ 先生……

桜井 久しぶりに分析した。信じていいよ。

優 ……はい。

山音 じゃあ、行きましょうか。

なつみ ……

優 (桜井に) ありがとうございます。

山音 また後でも話せるからね。

優 ……はい。

山音 ちよつと署まで送ってきます。

桜井 はい。お願いします。

椅子から立ち上がり山音に付き添われ、去ろうとする優。

なつみ どうだった？

優 え？

なつみ 隠し撮りのビデオでしょ。

優 ……うん。

なつみ 私もタベ見せられた。何時の間に……私、綺麗だった？

優 なつみ……

なつみ 私が殺そうと思ってたのに……

全員 えっ？

なつみ 貴方がやらなくても、私が……ちゃんと私が……

優 なつみ……

なつみ 会いに行くから。すぐに。

優 ……うん。……(山音に) お願いします……

山音 ……はい。

静かに出て行く山音と優。言葉が掛けられない桜井。

なつみ ……先生。

桜井 ん？

なつみ 食べていいですか？

桜井 ……いいよ。ドンドン食べなさい。

なつみ はい。

手提げ鞆からポテチを取り出し袋を派手に破って食べ始めるなつみ。
見守る桜井。食べ続けるなつみ。静かに暗転。

【SCENE／7】 薄暗い舞台に人の気配。1週間以上たったフリースペース。誰かが入室し、壁のスイッチを点ける。事務机で桜井がうなされている。飲み物を片手にしたトキコと涼次。

トキコ あら…先生、先生。

桜井 お止め下さるな、拙者には拙者には…

トキコ 先生。

桜井 ん？…ああ、これはこれは藤沢殿…

涼次 大丈夫ですか？

桜井 え…あれ？ 僕、寝てました？

トキコ 侍口調になってましたけど…

桜井 ああ、そうそう焼津の港に隕石が落ちて…あれ？

トキコ やだ先生。

桜井 …どうしたの君たち。

涼次 今まで屋上でして。

桜井 ああ、月見会？ そうかそうか、寝ちゃったんだ僕。あ、じゃあこれからココで2次会？

トキコ ええ、多分。

桜井 あ、じゃあ…ちよつと手伝って。

涼次 ああ、はい。

テーブルや椅子を適当に動かす桜井と涼次。

桜井 で、堪能できましたか？ 名月は。

トキコ ええ。でも朗読会の間に少しずつ雲が厚くなって来まして。

桜井 そうなの。

涼次 小雨がぱらついてきたので急遽下に移動って事に。

桜井 え、じゃあ、院長のスピーチはまだ？

涼次 ああ、はい…

桜井 他の人は？

トキコ 多分、見送りじゃないですか。時間的に帰る人もいたし。ああ、そうか、親の会の人も多かったしね。（腕時計見ながら）にして

もマズイ展開だなあ…

トキコ そうなんですか？

山音 あら、ココにいたの？

入室する院長、恵美子。

桜井 ええ、急ぎの残務整理がありまして…

山音 ふーん。

桜井 それに土本さん病欠だったんで、さすがに全員屋上つてのも物騒かなと思いついて、出来るだけホットラインの近くでつて…あ、こんな感じでよかったですか？

山音 ええ、かまわないけど…（笑顔で）スピーチは残ってますから。

桜井 あちやう。

山音 じゃあ皆さん適当に座ってください。それと…

早苗 お待たせしました。

ツマミの残りや飲み物をトレイで運ぶ早苗。手伝いのなつみ。

なつみ えっとこれは…

早苗 ああ、まとめてココへ…（皆に）もう残ってるだけなので、適当にバイキング方式って事で。

恵美子 ありがとうございます。

山音 そうそう忘れないうちに…実は今日、もう一つのお祝いを兼ねてまして、小坂さんが退院されます。

恵美子 （立ち上がった）どうも。

山音 弟さんと新しい生活を始める決心がついたようで、皆でもう一度乾杯をしましょう。

早苗 そればかりですね。

山音 え、だって満月と食事の前と閉会でしょ？ 普通じゃない。さ、いいかな？ じゃあ恵美子さん一言。

恵美子 あ、はい…お世話になりました。千葉の方で仕事も決まりそうなんです、弟と何とかやっていくつもりです。まあ、でも、頑張り過ぎずに、適当に人生サボりながらやっていきます。自助グループのほうも、落ちつたら顔

出すようにしますので、よろしく。えっと…ホントお世話になりました。また…気晴らしにきます。

山音 じゃあ…乾杯。

一口飲む面々。涼次が先行して拍手。皆も従う。

早苗 …じゃあ院長、そろそろ。

山音 え、もう？

早苗 恵美子さん達の電車もありますし、喋り出すと止まらないし。

山音 そんな事ないわよ、それに今日は…

トキコ あの、スピーチですよねえ、恒例の。

山音 ええ。

トキコ メモ取らせてもらって構いません。

山音 ちょっと止めてよ緊張するでしょ？

トキコ 取材の許可はいただいているはずですが。

山音 それはいいけど…あ、でも今日はメモ禁止ですね。

トキコ えっ？

山音 どうかしら、今日だけはメモ止めて、それでも記憶に残ったことだけ持ち帰ってもらうのは。

トキコ ああ、はい。

山音 その人にホントに必要な物はちゃんと残るし、メモらないと忘れてしまふ事はむしろ忘れた方がいいと思うの。

トキコ はい。やってみます。

山音 あ、余計に緊張してきた。

桜井 もう始まつてるんじゃない？ ありがたいお話が。

和む面々。食べ物を取る人もチラホラ。

山音 じゃあ、まあ、手短に。…摂食に限らず、いわゆる依存症のハードル

がどんどん低くなって来ています。スマホにコンビニ、24時間やつてるATM。全てが依存する心への大きな入り口です。なつみさん。よくグルメプ

ームといいますそれが支えているのって誰だと思う？
なつみ えっと…OLの人達ですか？

山音 そう正解。OLと主婦層ね。朝ごはんを抜いてお昼を300円代の弁当

で済ませ、600円台のグルメ雑誌を買って、週に1回、自分へのご褒美と言って豪華な食事に出掛ける。味よりもそこで食事をしている「自分」を味わう。片や、ネットやテレビのグルメ情報に釘付けになってクーポンなんか手に入れて、少しでもお得感ある店で食事をする。なかなか上手くやった「私」に満足する「自分」。いずれも本来の美食家、グルメとは程遠い。欧米では彼女達のことを誰もグルメとは呼びません。

恵美子 言われてみれば、その通りですね。

ふらり、容子が入室。皆の周りを浮遊する。

山音 社会が病んでいる。社会の方が間違っている。でもね…最近私は思うんですが…そろそろ「悪人探し」は止めませんか？ 社会が悪い、親が悪い、教育が悪い、あの人が悪い…そう思う気持ちにまた依存する心が芽生えてくる。そういう風に出来ている。

恵美子 つまり、もっと自分に向けて厳しくあれと。

山音 いえいえ、それまたキツイですからね…もつと抽象的な、架空のモン

スターですね。そいつの所為にしてしましましょう。

トキコ これはまた大胆な。

山音 名づけて「山音恭子のモンスター理論」ですね。いずれ学会で発表し、ゆくゆくは単行本も山のように売れて、サイン会なんかも開いちゃって…

桜井 総スカン食って、八つ当たりしないで下さいね。

山音 今の発言、後で後悔しますよ。あ「後で」は重複か…

早苗 で、莫大な印税はどうするんですか…

山音 はい。皆で南の島に行きましょう。

恵美子 わあ、すごい。

山音 専用のチャーター機で行きましょう。島のフルーツも美味しいけど、ちゃんと炊飯器も持っていって、美味しいごはんを食べましょう。ココにいる人は既に予約がリザーブされてます。

トキコ へえ。いいですねえ。

桜井 予約でリザーブとききましたか。

山音 じゃあココからは桜井先生が話します。
桜井 えっ？

なつみ よ、待ってました。

山音 何と言っても分室の長ですからね。クク。

桜井 ああ、判りました判りました。じゃあ：手短に：さあ、皆、飲んで食って。喋って喋って。

テーブルでサラダをつまむ面々。自らもコップを取る桜井。

桜井 …僕は院長のような話術はないし：腰を折るようで恐縮んだけど……僕は今まで誰かの命を救った実感が一度もありません。でも、死なせた実感は残ってる。

早苗 …先生……

桜井 …仮に彼女をA子と呼びましょう。ちゃんと患者と向き合うため、僕は相手の女性から信頼を得ようと思います。これが時折、相手にとつては依存対象になる。さらには疑似恋愛にも発展し……A子もまさにそうでした。いや、疑似って言ってるのは僕の逃げかも知れません。当時僕が通っていたのは丘の上の入院型クリニックで、A子はいつも門まで僕を出迎えて、廊下では手を握り、そして何より、回復の経過が順調でした。ある日、彼女が腕を組んで僕を門まで送ってくれていた時、施設の窓から僕達をからかう声が聞えたんです。僕もまだ若かったし経験が不足していた。他のドクターの目も気になった。僕は深く考えることなく、A子の手を振り払った……。その夜、彼女は手首を切って亡くなりました。僕がいけない時が寂しいからとねだられて買った、安いキーホルダーを握り締めて……。

全員 ……

山音 桜井さん……

桜井 最初の面接で、治ったら2人でラーメンを食べに行く約束をして、いつもその事ばかり喋ってた……ちよつと失礼。

コップに水を継ぎ足す桜井。容子だけが静かに歩行している。

桜井 …これは全くの受け売りですが、かつて日本に独自の神経症治療法を考案した、実に名高い医者がいましてね。彼は、まさに臨終の際、多くの弟子をベッドの脇に呼び付けて、泣きわめいたそうです。「死にたくない」「死にたくない」……「俺は医者だから自分の腫瘍のことも心臓の具合もよく判

コメントの追加 [はしぐち13]: 「働いていた」? 「通って」でも問題はないと思うのですが、どうもはしぐちが通院をイメージしてしまう偏屈ものでして。。。

る。だからよく見ておけ。自分は悟ったような顔をして死ぬのではない。オイオイと泣きながら死ぬんだ」……

全員 ……

桜井 …頑張って……いや、頑張らなくていい……皆さん、生かれるウチは生きていきましよう。

誰彼となく自然に拍手が沸き、舞台暗転。その刹那、容子に一条の光。やがて皆と共に闇に消える。

【SCENE / 8】闇の中、以下のセリフが先行する。

神谷 …だから、何が触媒になってるのか判らない所が怖いんです。

桜井 …へえ……それは叔父さんじゃないといけないんですか？

神谷 まあ、基本的にはそうですが、最近の感染例としては女子校生にも顕著に見られます。何と言っても「ダヨーン症候群」ですからねえ。

桜井 …はあ……

明かり入るとテーブルを挟んで桜井と神谷。

桜井 つまり、話の語尾について「ダヨーン」を入れてしまう。

神谷 「被害はとても深刻ダヨーン」「今日の会議は2時からダヨーン」。

桜井 にわかには信じられませんね。

神谷 でも病原菌である「叔父さん」が自己紹介したりすると大変ですよ。

桜井 …と言いますと？

神谷 「実は私こそが……ダヨーンの叔父さんダヨーンの叔父さんダヨーンの叔父さんダヨーンの叔父さんダヨーン……」

桜井 ああ、もう判りましたから。

神谷 弛まぬ円運動に陥ってしまう訳ですね。

桜井 …はあ……

神谷 どうでしょう？

桜井 いやあ、新しい都市伝説としては、今一つ真実味がないんじゃないかなあ……例えばもう少し叔父さんのリストラされた過去を盛り込んで、それを下敷きにしてですねえ……

神谷 あ、いいですねえ、それ。

机の上のインターフォンが今までとは違った音質で鳴る。

桜井 あ、ちよつと失礼。

神谷 どうぞ、どうぞ。

桜井 (電話に出て) はい。摂食ホットライン、担当の桜井です。…ああ、君か。おう、どうしてたあ?…当たり前だろ、ちゃんと覚えてるよ。雪江だろ。日置雪江。どうよ、最近…うん…うん…学校は?…うん……そっかあ、戻っちゃったかあ…うん……え、メール?……ああ、はいはい。いいよいいよ。じゃあ、また後で…(受話器置いて) どうもすいません。

神谷 患者さんですか?

桜井 ああ、ええ。まあ、彼氏からのメールで途切れてしまうような相談ばかりですけれどね…まあ、何が救いになるか判りませんので。

神谷 ホットラインって事は…通話料無料で?

桜井 中には金が無くて、医者に来れない奴もいますからね。

神谷 じゃあ、全くのボランティアですか。

桜井 いや、まあ、気持ち的には仕事ですね。彼女達から教わることも多いので。

神谷 なるほど…。

早苗 失礼します。

早苗がトレイにお茶を乗せ運んで来る。

神谷 ああ、どうも。

早苗 粗茶ですが。

神谷 ありがとうございます。

桜井 ま、どうぞ。

静かにお茶を飲む3人。

神谷 あの。

桜井 はい。

神谷 やつぱ不味かったですか? 私のお茶。

桜井 ああ、いえいえ。

早苗 きよ、今日はたまたま時間に余裕がありましたので…

神谷 はあ…

桜井 えっと、じゃあ角田君も来たので本筋の方を。

神谷 ああ、はい。…(資料を取り出し)…ホントいろいろご協力いただきまして、せめてもの気持ちを報告資料にかえまして。

2人 (手渡され) はあ…

神谷 基本的にはメールしました通りの内容です。キーワードの発見により警察も出光、菱田両名の自宅搜索を目論んでいます。容子さんが書いた死の直前の記載が大きな材料になりました。

早苗 まるで予言でしたもんね。自分が殺されるシーンの。

神谷 はい。当事者しか知らない事実も多く、驚かされました。

桜井 例の文字化けメールを送って来てた人達は大丈夫でした?

神谷 はい。ご進言いただいた通り、摂食障害の方々のプライバシーは手厚く保護されるよう手続きが済んでいます。それに加えて例の小山内優の傷害事件。

早苗 え、じゃあ、刺されたなつみさんの先輩も、例の事務所が絡んでたんですか?

桜井 裏ビデオ絡み? 腰の重い警察を動かすには、格好のタイミングだったらしい。

神谷 まさに「機は熟した」って感じですね。

早苗 へえ…でも命に別状なくて良かったですね。もちろん優さんやなつみさんにとつて。

桜井 そうね。いろいろご苦勞様でした。

神谷 いえいえ。

早苗 えっと、じゃあ今日はこの報告書だけですか? 訪問の訳は。

神谷 ああ、いえ…まあ、その…

桜井 そうそう、肝心のウェブサイトの管理運営はどうなったんです? ご家族とは上手くまとまりました?

神谷 それが…消えちゃいました。

早苗 はい?

桜井 ホームページが、ですか?

神谷 はい。何の予告も無しにある日ブツつと。サーバー業者も首をかしげる

ばかりで……まるでずっと前から何かの时限装置がプリセットされていたかの
ように。まあ、技術的には考え難いんですが……

桜井 それいつです？

神谷 先週の土曜日。時間にして午後8時少し前。

早苗 あっ！

桜井 何？

早苗 月見会の日ですよ。あ、もしかして、黙とうの所為？

桜井 え、何、黙とうって。

早苗 そうか先生屋上に参加してなかったから……あのですね、院長からの発
案で、怪談騒ぎの鎮魂も含め、屋上で皆で黙とうしたんです。

桜井 それがその時間？

早苗 ええ、その辺り。

神谷 じゃあ、あれですか？ やはり見えない力がネットに作用して……

桜井 まさか……ね。

早苗 ええ、まさか……

静かにお茶を飲む面々。帰り支度を始める神谷。

神谷 ……じゃあ、私はそろそろ。

早苗 え、そうですか？

神谷 お茶ご馳走様でした。何か心のつかえがさつぱりしました。それに……（腕
時計を見て）ちよつと営業的にも追い込まれてますので。

早苗 ああ、そうか。結局営業としては無駄足だったんですものね。

神谷 完全なボランティアです。

桜井 ま、お互い長生きしますよ。

神谷 はい。では……またいずれ。

丁寧 丁寧に頭を下げて去る神谷。見送る2人。

桜井 さてと……今夜はどう？

早苗 ……いえ……さすがに試験に備えます。

桜井 いいよ。参考書片手に指導込みでも。

早苗 駄目なんですそれじゃあ。

桜井 え、教え方が不味い？

早苗 いえ……やっぱ……勉強は集中しないと。

桜井 ……うん。……まあ、そうですね。

早苗 ほら出た。

桜井 あ。

早苗 先生は丁寧語依存症です。

桜井 ……いい店予約しておくよ。合格を祈って。

早苗 ……はい。あ、そうだ。

桜井 何か嫌な予感。

早苗 そうじゃなくて……さつき春日井さんがおかしい事言い出して……

桜井 また勤務時間への不満？

早苗 いえいえ、午前中に電話があつてね、小坂恵美子さんはいつ退院したの
かって。

桜井 母方の親戚筋とか？

早苗 それが「谷涼次」って名乗ったそうなんです。

桜井 え……まさか、だつて……

早苗 ええ、まあ、春日井さんの事だから聞き間違えの可能性大なんだけど。

桜井 それで電話の主は？

早苗 春日井さんが退院した日時を告げて、それで終わり。とても丁寧な口調
の男性だつて。

桜井 そう……

早苗 ……ま、一応報告って感じで。

桜井 うん。

早苗 ……じゃあ、外來行つてきます。それとワインはロゼで。

桜井 はい。了解しました。

一人になつて肩をグルグル回す桜井。ふと手を止める。

桜井 ……谷涼次……まさかね……

不意に鳴るホットラインのコール音。出る桜井。

桜井 ……はい摂食ホットライン、担当の……ああ、僕、僕……うん。いいよ。

えっと、さっきのは前の彼？ 茶髪の……あ、なんだそうかあ、いつ？ つかあ、そんな前か……うん……うん……体重は？……眠れる？……うん……で？ 新しい彼は知ってるの？……うん……うん……そっか……うん……じゃあさあ、雪江さんさあ、一度来ないかあ？……うん……久しぶりに顔見せてよ。最近面白いんだぜ。クリニックに巨大な文鳥が出没してさあ……いやいや……見にくいよ……うん……え、約束？ ああ、約束って僕との？……いいよ……怒ってないって……僕との約束は、この電話でチャラだ……いいんだよ。何回失敗したって……僕なんか毎日院長に怒られてるんだぞ……うん……うん……じゃあ、新しい約束はねえ……そうだなあ……下剤だけは今すぐやめて、電話切ったらトイレに流すこと。んで……来週辺り来れない？……うん……いいよ……診察代ぐらい貸しといてやるからさ……うん……ああ、じゃあ、もう一つ。約束の追加ね……ちゃんと直ったら、何か上手いモン食に行こう。……まあ、それはお前の態度次第だけだね……うん……ああ、馬鹿にすんなよ、ちゃんと行き付けの店の1つや2つ……あ、そうそう、今夜もちよっと下見したい店があつてねえ……え？……バーカ、そんなじゃないよ……うん……うん……そっかあ……大変だなあお前も……そう……うん……生理は順調？……うん……うん……そっかあ……

いつまでも笑顔で話し続ける桜井を残し、静かに暗転。 おわり

【参考図書など】

- 「拒食の喜び、媚態の憂うつ」 大平健著 岩波書店
- 「依存症の女たち」 杵野未矢著 講談社文庫
- 「必ず治せるー摂食障害」 菅野庸著 文芸社
- 「過食・拒食」 黒川順夫著 双葉社
- 「伝染る『怖い話』」 別冊宝島編集者部編

★なお、これらの書籍類に先立ち、何より「こころ♥ネットKANSAI」の当事者、回復者、病院関係者の方からの「生の取材」が、僕にこの戯曲を書かせてくれました。この場を借りて皆様の御理解と勇気に感謝いたします。

はせひろいち

本作品の上演につきましては、必ず左記までご連絡ください。

〒501-0431
岐阜県本巣郡北方町北方1857
ハイタウンS2・815
はせひろいち

【090・8544・4480】

